



<http://www.yokohamaymca.org/>



■目次

2006AIDS文化フォーラム in 横浜の概要と特徴	2
2006プログラム	4
オープニング企画	6
特別企画	8
若者	9
教育	13
セクシュアリティ	19
医療	20
社会問題	22
文化	23
人権	25
PHA/PWA	26
検査・保健所	29
国際	31
フォーラム風景	35
展示出展団体	36
フォーラム関連記事	40
フォーラム全体集計表	42
AIDS文化フォーラム in 横浜を支えた人たち	46

2006（第13回） AIDS文化フォーラムin横浜 報告書

テーマ『つながる空間～Living Together～』



■開催概要

◇名称： 2006AIDS文化フォーラムin横浜（第13回）
◇期間： 2006年8月4日（金）～8月6日（日）
◇テーマ： 「つながる空間～Living Together」
◇場所： かながわ県民センター
◇主催： AIDS文化フォーラムin横浜組織委員会
◇共催： 神奈川県
◇後援： 横浜市、川崎市、横須賀市、相模原市、藤沢市、神奈川県教育委員会、（財）エイズ予防財団、横浜商工会議所エイズ問題対策懇談会、第20回日本エイズ学会学術集会

◇運営組織：
組織委員長（山根誠之・横浜YMCA）
組織委員会（横浜商工会議所、横浜いのちの電話、横浜青年会議所、カトリック横浜教区、ワイズメンズクラブ国際協会東日本区、横浜YWCA、横浜YMCA）
運営委員長（岩室紳也）
運営委員会（医師、保健師、教師、大学生、NPO代表者などのボランティアで構成）
事務局 横浜YMCA（渡辺誠二 細川もなみ 柳原さつき 白井美穂）

2006（第13回）AIDS文化フォーラムin横浜の概要と特徴



■ 参加データ

「つながる空間～Living Together～」のテーマのもと、発表企画50・展示20・パーティー2、計72の企画が集いました。3日間の延べ来場者数は、3880名となりました。昨年度(74企画、5509名)と比べ、総数は減ったもののプログラムの質は高く、定員を上回る盛況な講座が数多くみられました。若い世代の参加も多くAIDS文化フォーラムは毎年新しく生まれ変わっています。

■ オープニング企画 ～エイズと宗教を語る～

今年のオープニング企画は「エイズと宗教を語る」でした。岩室紳也さん(医師)の進行による僧侶・古川潤哉さん、神父の細井保路さん、『神様がくれたHIV』著者でHIV陽性者の北山翔子さん(保健師)の絶妙なトークライブとなりました。語られた言葉はいずれも体験に裏づけられ、一つひとつが心深く沁みました。生きること、死ぬこと、命と性の営み。宗教を超えてつながり、与えられた時を、豊かに、共に生きることの大切さを教えられ、まさに今回のフォーラムのテーマ、

「つながる空間～Living Together」を体感するひとときでした。

■ 聴衆から発表者へ

昨年、「タダで飯島愛に会える」というので、友達を誘ってAIDS文化フォーラム in 横浜に来てくれた医学生が、同じ女性の北山翔子さんがセックスで感染したHIV+というのを公表していることがすごく衝撃的だったといいます。さらに、自分が高校生のとき「寂しいからとりあえずセックスしてた」経験を通して、今の若者たちに「自分を大切にしてほしい、ほかにも楽しいことなんて探せばいっぱいあるんだから、簡単にセックスしないでほしい！！という思いを、伝えたい」とピア活動をはじめ、今回は大人気のセッションを持ってくれました。

■ ボランティアの30%が中学生でした！

今年は70名の会場ボランティアがフォーラムを支えて下さいました。内訳は中学生が30%、高校生が10%、専門学校生・大学生が10%、社会人(その他)が50%でした。中学生から60代位の方まで、ボランティアを通して交流しているのがこのフォーラムの魅力のひとつです。

新しい風～若い世代がつながっていくAIDS文化フォーラム

■ 教育関係者参加者トップ

近年高まっている教育関係のニーズに応え、今年は教育分野で11講座が実施されました。参加者割合は26%で、1997年フォーラムに比べ2倍になりました。若者へのHIV/AIDS教育や性教育のしかたについて学校関係者が質疑応答で悩みや疑問点をぶつけている姿も印象に残りました。DVDやPowerPointを含め教材に対する注目度も高く、今後も学校や地域社会との幅広い協力関係を構築するためにも、引き続き取り組まなければならない課題です。

教育関係からのプログラムへのニーズの高まり

宗教を超えて
Living Togetherを
体験するひととき



■ つながるフォーラム ～ICAAP → フォーラム → 第20回日本エイズ学会～

今年で13回目を迎えたAIDS文化フォーラム in 横浜。2005年7月に開催された第7回エイズアジア太平洋地域国際会議(ICAAP)や、2006年11月に開催される第20回日本エイズ学会(テーマ: Living together～ネットワークを広げ、真の連携を創ろう)と連動し、日本国内でHIV/AIDSに関する様々な活動がつながり、発展していく「つながる空間」として大きな役割があると感じています。

■ プロジェクトYの場外プログラム

会場の県民センターのすぐ近くにあるYMCA ACTのユースリーダーたちが、コミュニケーションプログラムで参加しました。

リーダーたちは、フォーラム最終日の二つのプログラムに参加しそこで出会った人たちに声をかけ、アンケートを取り、夕方にYMCA ACTで行なうパーティーの招待券を渡しました。パーティーには会場運営ボランティアを中心に教室に入りきれない程の多くの参加者が集まり、フォーラムにまた、新たな交流の場ができました。リーダーたちは、HIV/AIDSの知識だけではなく、感染者やその家族の思い、そして、人と人が助け合って支えていくことの大切さが理解できた感想を述べていました。

一人一人の行動が広がり大きな輪となる

■ AIDS文化フォーラムin横浜発のHIV/AIDS啓発グッズ登場！

今回、岩室先生と母袋さんのコラボレーション企画で、ネクタイ(緑コンドーム柄・黄色レッドリボン柄)とハンドタオルを作ることが出来ました。身近に感じていない「AIDS」に対し、少しでも意識の向上が期待できるようにデザインしたつもりです。日常、活動のアイテムとしてご使用して戴けたら幸いです。

母袋(モタイ)プロジェクト第1弾！！—ネクタイとハンドタオルで予防啓発！

■ パーティでネットワークを作る！！

文化フォーラムでは、金曜日の夜に会場内でネットワーキングTEAパーティ、土曜日の夜に近く中華料理店でネットワーキングパーティを行いました。ネットワーキングTEAパーティでは、参加者の中で一番遠くから来た方やフォーラムへの参加暦が一番長い方などを紹介しました。また、参加者の方々からの活動紹介の時間では、偶然にも近くの大学で活動していた大学生がそれぞれの活動を紹介し、新たなネットワークが生まれました。どちらのパーティも同窓会のように懐かしい方々との再会があり、新しい方々との出会いもあり、とても盛り上がった時間となりました。

TEAパーティー発、新しいネットワーク

■ 展示コーナーに感動、10代も50代もリラックスして自分のペースで参加

東海大学さうぼーなSアフリカと渡邊文隆さんの写真展が、国々の現実の姿をリアルに伝え、添えられたメッセージが強く参加者の心を揺さぶりました。若者の対談やエイズ統計のパネルに、自分に身近なことなのだと感じたり、小学生も描いているポジティブなポスターに驚いたり、書籍やパンフレットから今まで触れた事の無かった情報に巡り合えたり…ひとり一人の心に深い出会いが見つけれられた場でした。

写真が伝える世界の現実と人々の絆

一人一人の
行動が広がり
大きな輪となる







テーマ:つながる空間～Living Together～

*入場無料 *プログラムによっては、プログラム内容をより深く理解していただくため、対象者を限定するものがあります。

(都合によりプログラムが変更になることがあります。最新の情報はその都度、ホームページhttp://www.yokohamaymca.org/AIDS/でご確認ください。)

PEERは遠見才希子さんによる心に響くピアエデュケーションの実践です(405号室:12:20～12:50 15:20～15:50)

部屋	10:00～12:00	13:00～15:00	16:00～18:00
ホール	オープニング企画 エイズと宗教を語る	特別企画 夜回り先生 ※ 往復はがきによる事前申込制(右頁参照)。 (水谷修)	新作DVD上映「HIV/エイズってなに?」● ①感染の仕組み編 ②HIVと共に生きて編 (ケースーズ 監修 岩室紳也)
301 (90)	神様がくれた HIV 北山翔子 サーファー神父 細井保路 ビジュアルジョッキー坊主 古川開哉	北沢杏子の「エイズの授業」 ● (性を語る会)	Positive!!!!!!!!!!!!!!with HIV ★ (パトリック&紳也)
304 (60)	 愛のち生きる 	子どもとエイズ ～ユニセフの活動と子ども達の視点から (財)日本ユニセフ協会)	在日タイ人 AIDS 患者の帰国支援 ～治療へのアクセスに向けて (「特活」シェア=国際保健協力市民の会)
306 (60)		教育関係者のための朗読ワークショップ (桜屋伝備門+岡島龍彦)	携帯世代における若年層のせいの問題とは ～携帯で学ぶ性教室～ (株式会社ジーエー企画)
403 (60)			性・エイズ教育、どんな展開してますか? ～保健師による06年版実践事例紹介+α (神奈川県厚木保健福祉事務所 富岡順子)

ネットワークング・TEAパーティー 8月4日(金) 18:15～19:15 301会議室

部屋	10:00～12:00	13:00～15:00	16:00～18:00
ホール	針刺し事故の予防と対応 日本SD株式会社 セーフティーマネージャー 組見由美子 (神奈川県保健福祉部健康増進課)	映画上映 向日葵 と HANDS (横浜 Cruise ネットワーク)	映画上映 夢のゆくえ —取引される少女たち— (国際移住機関)
301 (90)	エイズ教育の役割分担 ● 教師が教えること、医者が語ること (安藤晴敏・岩室紳也)	HIV 感染症: その現状と患者の人生(DOL) (横浜市立大学医学部看護学科 白井輝教授)	HIV/AIDS 教育で使いたいPower Point 教材 ● (地域医療振興協会 岩室紳也)
303 (30)	声なき叫びを聴く ～今、アジアでは (財)日本ユニセフ協会神奈川県支部・ふれきしふる)	エイズ・ 「同性愛カミングアウト無料電話相談」実施6ヶ月報告 (アイデンティティハウス) (AGP 教育子ども分科会)	神様がくれた HIV ★ (北山翔子)
304 (60)	ボランティアのための朗読ワークショップ (山村まゆみ+岡島龍彦)	共に生きるとは? (プレイバックーズ)	高校生とセックス 若者が危ない!! 性感染症の攻撃 (AIDSネットワーク横浜)
305 (60)	地域がわかる! ● 「性」=「生きるための心」の教育 (PNY:ひこい [Peer Network Yamagata])	北山翔子と遠見才希子 葉書エイズから葉書肝炎 /葉書は繰り返される (葉書エイズを考える山の手の会)	長野美根医学博士の「病気と食事と食育」 ★ (ぼーとたまがわ)
306 (30)	心と心をつなぐ談話術 ～妊婦さんによる子どもから大人までを対象とした教育プログラム～ (JOINT HEART)	若者たちのセクシャリティとエイズ ★ 看護教諭とホンヒサオのトーク (ひさおの部屋サイト)	デートDV予防ワークショップ (NPO法人 エンパワメントかながわ)
403 (60)	PWAによる地域密着型自助活動 ★ (PHILIP)	★ 青年会議所と保健所のコラボレーション♪ (岩手県大船渡保健所)	
404 (30)	W. Yoko の How to Make 'AIDS WORKSHOPS' (AIDSを伝えるネットワーク [TENCAI])	W. Yoko の How to Make 'AIDS WORKSHOPS' (AIDSを伝えるネットワーク [TENCAI])	W. Yoko の How to Make 'AIDS WORKSHOPS' (AIDSを伝えるネットワーク [TENCAI])

ネットワークングパーティー: 8月5日(土) 18:30～ 中華料理屋 迎診 内容: 中華料理を食べながら交流
参加費: 4,000円(中華料理・飲み放題付き) 3,000円(ノンアルコール) 定員: 55名(チケットは8月4日より会場内事務局で販売)

部屋	10:00～12:00	13:00～15:00	15:15～16:30
ホール	映画上映 夢のゆくえ —取引される少女たち— (国際移住機関)	新作DVD上映「HIV/エイズってなに?」● ③社会・Q&A編 ①感染の仕組み編 (ケースーズ 監修 岩室紳也)	ホール 琉球太鼓 15:15～ (横浜ダルクエセンター)
301 (90)	今、学校では・・・現場の声は・・・ (性・酒・薬物・タバコ・こころ) (安藤晴敏)	エイズ感染発症とSAFE SEXIについて話します (国立国際医療センター 木田美和子) ●	全体会・閉会式
302 (30)	大切なものを守るために ～人身売買に立ち向かう (てのひら～人身売買に立ち向かう会)	生きる力を引き出すエイズ対策 ～ウガンダReach Outの経験から～ (外処恵美)	つながる空間 ～Living Together～
303 (30)	今日のあるある! テーマは「性活習慣病」 (CAI [Campus AIDS Interface])	アフリカと日本をつなげるピアエデュケーション (アデオジャパン)	
304 (60)	医療関係者のための朗読ワークショップ (プロジェクトY+岡島龍彦)	世界がもし100人の村だったら ～HIV/AIDSバージョン～ (横浜YMCA ACT)	
305 (60)	「自分を大切にすること」 ● —エイズ予防教育の実践紹介— (山田七重)	Peer Education -心に響く性教育— (遠見才希子)	
306 (30)	外国での取り組みから ～南アフリカのエイズ孤児院 ～2つのエイズ対策先進国～ (東海大学、渡邊文隆)	保健所での即日検査の実際 (神奈川県厚木保健福祉事務所、他)	「新たに HIV/AIDS について基礎から学びたいのですが、どのプログラムがよいのですか」という問い合わせが少なくありません。どのプログラムも HIV/AIDS に関連する貴重な報告ですが、その時間帯で比較的基礎的な内容となっているのを「●」、PHA・PWA・PLWHA=People living with HIV/AIDSの方の話を「★」で表しました。
403 (60)	検査最新事情 (神奈川県衛生研究所 今井光信)	NY→トロント、そして神戸→横浜→東京 (AIDS&Society研究会)	



2006年実施プログラム

オープニング企画 ～エイズと宗教を語る～
 細井保路(神父)、古川潤哉(僧侶)、北山翔子(『神様がくれたHIV』著者)の3人による、異例の組み合わせトーク！

若者

- Peer①高校生とエイズ、Peer②10代の中絶、Peer③性感染症・エイズと検査、Peer④若者の身近にある性情報 (遠見才希子)
- 若者が危ない！！性感染症の攻撃 (AIDSネットワーク横浜)
- デートDV予防ワークショップ (NPO法人 エンパワメントかながわ)
- 携帯世代における若年層の性の問題とは (株式会社ジーエー企画)
- 今日のあるある！テーマは「性活習慣病」(CAI(Campus AIDS Interface))
- ボランティアのための朗読ワークショップ (山村まゆみ+岡島龍彦)
- アフリカと日本をつなげるピアエデュケーション (アデオジャパン)
- 「外国での取り組みから」～南アフリカのエイズ孤児院～
 ～2つのエイズ対策先進国～(東海大学、渡邊文隆)

社会問題

- 特別企画 夜回り先生(水谷修) *下記参照
- 薬害エイズから薬害肝炎／薬害は繰り返される (薬害エイズを考える山の手の会)
- 今、学校では・・・現場の声は・・・ (性・酒・薬物・タバコ・こころ) (安藤晴敏)

教育

- Peer Educationー心に響く性教育をー (遠見才希子)
- 北沢杏子の「エイズの授業」(性を語る会)
- 心と心をつなぐ腹話術～教育プログラム～ (JOINT HEART)
- 教育関係者のための朗読ワークショップ (H.I.Voice Act桜屋伝衛門+岡島龍彦)
- 共に生きるとは？(プレイバックーズ)
- 性・AIDS教育、どんな展開してますか？～保健師による06年版実践事例紹介+α～ (神奈川エイズ対策事業検討会ワーキンググループ)
- HIV/AIDS教育で使いたいPower Point教材 (地域医療振興協会 岩室紳也)
- エイズ教育の役割分担 教師が教えること、医者が語ること (安藤晴敏・岩室紳也)
- 「自分を大切にすること」ということーエイズ予防教育の実践紹介ー (山田七重)
- 新作DVD上映「HIV/エイズってなに？」
- ①感染の仕組み編②HIVと共に生きて編③社会・Q&A編 (ケースーズ 監修 岩室紳也)

文化

- 映画上映 夢のゆくえ～取引される少女たち～ (国際移住機関)
- 映画上映 向日葵とHANDS (横浜Cruiseネットワーク)
- 世界がもし100人の村だったら～HIV/AIDSバージョン (横浜YMCA ACT)
- 琉球太鼓(横浜ダルクケアセンター)
- 「一服のお茶から」(神奈川県立舞岡高等学校、茶道部)

人権

- W.YokoのHow to Make 'AIDS WORKSHOPS' (AIDSを伝えるネットワーク(TENCAI))

セクシュアリティ

- 「同性愛カミングアウト無料電話相談」実施6ヶ月報告(アイデンティティはうす)(AGP教育子ども分科会)

医療

- 医療関係者のための朗読ワークショップ(プロジェクトY+岡島龍彦)
- 針刺し事故の予防と対応(日本BD株式会社)
 セーフティーマネージャー 細見由美子
 (神奈川県保健福祉部健康増進課)
- HIV感染症:その現状と患者の人生(QOL)
 横浜市立大学医学部看護学科 白井輝教授
 (神奈川県保健福祉部健康増進課)
- エイズ感染爆発とSAFE SEXについて話します
 (国立国際医療センター 本田美和子)

PWA/H (HIVに感染している人)

- PWAによる地域密着型自助活動 (PHILIP)
- 神様がくれたHIV (北山翔子)
- Positive!!!!!!with HIV (パトリック&紳也)
- 長野美根医学博士の「病気と食事と食育」(ぼーとたまがわ)
- 若者たちのセクシュアリティとエイズ (ひさおの部屋サイト)

検査・保健所

- 青年会議所と保健所のコラボレーション♪(岩手県大船渡保健所)
- 検査最新事情 (神奈川県衛生研究所 今井光信)
- 保健所での即日検査の実際(神奈川県平塚保健福祉事務所、他)

展示出展団体

- ◆AIDSカスタネット倶楽部 ◆AIDS & Society研究会議
- ◆アフリカ友の会 ◆ATAC in NARA ◆LAP
- ◆CAI(Campus AIDS Interface) ◆株ケースーズ
- ◆神奈川県保健福祉部健康増進課 ◆PHILIP
- ◆希望の家を支える会 ◆マイレドリボン運動 ◆性を語る会
- ◆てのひら～人身売買に立ち向かう会
- ◆横浜AIDS市民活動センター ◆(財)日本ユニセフ協会
- ◆ユニセフ神奈川県支部・ふれきしぶる
- ◆日本家族計画協会 ◆かながわレドリボンプラザ
- ◆アジアの女性と子どもたち

国際

- 子どもとエイズ～ユニセフの活動と子ども達の視点から～ ((財)日本ユニセフ協会)
- 声なき叫びを聴く ～今、アジアでは (ふれきしぶる(ユニセフ支援市民グループ))
- タイの医療制度・帰国支援について (シェア＝国際保健協力市民の会)
- 大切なものを守るために～人身売買に立ち向かう (てのひら～人身売買に立ち向かう会)
- NY→トロント、そして神戸→横浜→東京 (AIDS & Society研究会議)
- 生きる力を引き出すエイズ対策～ウガンダReach Outの経験から～(外処恵美)

* 特別企画 夜回り先生(水谷修氏) について
 このプログラムのみ、入場には入場券が必要です。入場券の申し込み方法は、7月1日よりAIDS文化フォーラムのHPに掲載します。なお、申込者が多い場合には抽選になりますのでご了承ください。



□オープニング企画 エイズと宗教を語る

主催： AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会

内容：

『神様がくれたHIV』著者であり、自らHIV感染をカミングアウトされた北山翔子さん、甲府カトリック教会司祭、『サーファー神父』こと細井保路さん、浄土真宗本願寺派僧侶（佐賀・浄誓寺）の『ビジュアルジョッキー坊主』こと古川潤哉さんの異色な3人がそれぞれの立場からエイズと宗教のつながりについて語り合いました。（司会進行役：岩室紳也）

そしてMCは、
岩室紳也！



『ビジュアルジョッキー坊主』
古川潤哉！

『サーファー神父』
細井保路！

『神様がくれたHIV』
北山翔子！

来場者の感想：

今日は母につれられて来たんですけど、来て良かったなあと思いました。人と人とのつながりのことなので難しいなあと思ったけれど、みなさんの話を聞いて、気持ち軽くなったような気がします。ありがとうございます。（宮城県/10代/学生）。／同感するところがいっぱいあったので、とても勉強になりました。人と人とのつながりなどが分かりました。いろんな生き方をしている人たちの話をきけてよかったです。（宮城県/10代/学生）。／宗教といえば性の否定とかを連想していたけれど、まるっきりちがっていたのにびっくりした。（神奈川県/10代/学生）。／宗教家のお話を聞いて、エイズのことを日常적인見方で考えることができ、宗教の今の有る姿を垣間見れたような気がします。（神奈川県/20代/その他(フリーター)。／今までの宗教の関わりの中では、割と他の宗教や無宗教の方を排除していたので、とても嫌だったのですが、今日は私が常々考えていたようなことを話していただいたのでとても心が安らぎました。いろいろなことを知るというのはとても楽しいことですね。（宮城県/40代/保健医療関係）。／テーマをHPでみた時、あっそうか、そういう切り口あったよねって思いました。期待通りの内容でよかったです。（京都府/40代/NPO）。／毎年参加しています。中央でしか入手できない最新情報と教育関係者だけでなく、あらゆる立場での参加者が集うこのフォーラムに期待しています。（新潟県/40代/教育関係）。／初めての参加であったが、目からウロコ！エイズに対する考え方が変わり宗教についても考えさせられた。（神奈川県/50代/その他(専門職)）／「あるがままを受け入れる」他人も自分も。とても大切で根本的な問題を自分に問う、よい機会となりました。ボランティア活動(電話相談)で難しさを実感しています。（神奈川県/60代以上/その他(ボランティア)）／はじめてフォーラムに参加して3名の方のとても有意義なトークの話を聞いて、いろいろな人のエイズに対しての考え方、また、社会一般の考え方など勉強になった。神父・坊主と宗教が違っても同じ仲間、同じ考え方で共感していてすばらしいと感じた。／宗教とは生き方の確認であるということ。不平、不満の中にあっても必ず感謝すべきことはあり、「おかげさま」という気持ちの大切なこと。縁という言葉であらわされる全てのかかわり、つながり方から学ぶこと。とかく自分中心に考えることの多い中でトークにのぞまれた方々の言葉が心に響き、貴重な時間を持つことができました。岩室先生の司会進行もお見事でした（保育士）

「エイズと宗教」
まさに生き方を問う
プログラムでした



コラム

第13回AIDS文化フォーラム:「エイズと宗教を語る」に寄せて

今回のオープニング企画は「エイズと宗教を語る」だった。エイズと宗教、一見距離があるように見えるが、命という点でつながっている。思えば2004年5月17日、日本カトリック司教協議会(カリタスジャパン)HIV/AIDSデスク主催の勉強会に参加したときのことだった。最後の質疑応答で、ある参加者が語った。「私は信徒で、同性愛者で、感染者です」と。とつとつとしかし静かな叫びのような言葉に強く心を動かされたことを記憶している。

カトリックの宗教倫理、しかし生きている現実。時に相反し激しい葛藤をも生み出す問題ではあるけれど、「命」―「生と死」を捉えてHIV/AIDSとキリスト教という観点から考えることができるか、と。それは避けられない問題であると。

AIDS文化フォーラムを事務局としてこれまで支えてきた横浜YMCAはキリスト教の価値観に立って人に関わり、地域そして社会に関わり、世界に関わる団体である。これはYMCAとしてフォーラムに関わる私・私たちが向き合う事柄でもある、と思った。そして私自身の中にずっとあった2年越しの企画が今年実現した。

できれば、一つの宗教だけではなく、いくつかの宗教の視点からこの問題を考えたい。けれど言うは易し、それほど簡単なことではなかった。幸い浄土真宗の僧侶・古川潤哉さん、カトリック神父の細井保路さん、『神様がくれたHIV』の著者でありHIV陽性者である保健師の北山翔子さん、そして治療と予防啓発の最前線にいる医師・岩室紳也さん。理想的なラインナップが揃い、当意即妙のライブトークは実に示唆に富んだ内容となった。

それぞれごく淡々と語られる実践や体験はどれも深く重く、一つひとつの言葉が心に響いた。しかも生きるということ、そして死ぬということ、その間をつむぐそれぞれに生と性の営みと命。宗教とその教理を超えて底でつながっているように思えた。まさに今回のフォーラムのテーマ、「つながる空間～Living Together」がそこにあった。古川さんに対して、岩室さんが「何故(若い僧侶であるあなたが)エイズに関わり、そのような考えを持つに至ったのか?」と尋ね、「お葬式を司式した数(の多さ)ですかね」との応えたのが印象的だった。人は生き、人は死ぬ。この厳然たる事実と尊厳が宗教を超えて人を動かす。与えられた(自らの)命を他者の命に結び付けて「使う」。それを「使命」と呼ぶのだろう。

人間は、身体的な存在であり、精神的な存在であり、経済的な存在であり、社会的な存在であり、関係性の中で生きる存在でもあり、霊的な存在でもある。様々な側面を持つ。人は何故、誰と共にどのように生きるのか。答えの出ない永遠のテーマではあるけれど、限られた時を生き、豊かに、そして共に生きるために、このオープニング企画に多くの学びと気づきを与えられた。感謝である。しかしこれはこれで「終わり」ではない。「始まり」だろう。

今、世界では約1100万人の子どもたちが5歳の誕生日を迎えられず(3秒に1人)死んでいく。約1500万人がエイズ孤児となっている。災害紛争、貧困、暴力、エイズの只中であって。開発途上国で、深刻化するHIV/AIDSと最前線で、多くの宗教系のNGOが活動をしている。目前の危機にさらされる命、それらを避けられないこととして戦うNGOの存在を知っている。それを是非私たち一人ひとりに問われ求められていることとして、考え続けたい。共に。

大江 浩(AIDS文化フォーラム運営委員)



生きるということ、
そして死ぬということ、
その間をつむぐそれぞれ
に生と性の営みと命。
宗教とその教理を超えて
底でつながっている



□水谷修「夜回り先生」

主催：AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会



内容：

著書『夜回り先生』で知られている水谷先生による講演。若者の非行防止と更生のため、「夜回り」と呼ばれる深夜パトロールを行っておられます。夜の街に追い込まれている若者を受け入れ夜回りする日々と、若者をはじき出し困難な現実を作り出している大人社会への闘いについて、熱く語っていただきました。

来場者感想：

- ・学校生活のこととか普段の生活のこと、どんな人がどんな理由で苦しんでいるのか、そういうので死んでしまった人の話などを聞いて感動し、また聞きたいと思った。(10代、学生)
- ・学校とかだと問題の表しか教えてくれなくて、いまいち実感がわかんなかったけど、今回の話では実感どころか怖ささえ感じられた。自分の中学校にも来てほしいです。(10代、学生)
- ・これから途上国で青少年活動をするために協力隊に参加します。青少年活動に生きる決心ができました。(20代、教育関係)
- ・初めて先生のお話をお聴きしました。私は今学校で勤めていますがどこかいつも他人事のように接している自分がいて、もっと子どもたちとの接し方を考えたいと思いました。とても考えさせられる話でした。(20代)
- ・実体験に基づく様々な話が聞けてよかった。午前中のセッションに引き続き相手への思いやりがキーワードと感じました。(30代、保健医療関係)
- ・教えられたこといっぱいありました。耳が痛くなるような言葉もいっぱいありました。水谷先生の言葉を忘れずに子どもと接することができるような努力をしたいと思います。(40代、主婦)
- ・子どもたちのことを思うと胸がいたくなる思いでした。少しでも大人として出来ることを今日いまから実行したいと決意しました。ありがとうございます。また大きくなっても同じおもしろい人もたくさんいます。どうしたら良いか、仕事に生かしたいと思います。(50代、相談員)
- ・カウンターを使ったあいさつ運動をもう3年間続けています。それは水谷先生のこのあいさつについての話を聞いたことから始まりました。(50代)
- ・まず家族の挨拶からはじめます。(50代、保健医療関係)
- ・話の導入でいきなり中学生、高校生の子どもの非行の実態を聞かされて身動きできないくらい集中している自分に驚いた。青少年の非行だけでなく、社会が大人がどう子ども達に関わっていくべきか、先生の実際に体験された話をされながら訴えていたので感動した。会場は子ども連れの夫婦(学校の先生らしい?)もいて、小さい子どもにも質問したりして、子どもが集中して聞いていた。あっという間の2時間であったが、とても自分自身考えさせられることもあり参加できてよかった。(保育士)

連絡先：水谷修

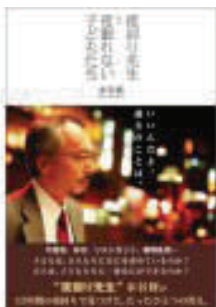
URL <http://koubunken.co.jp/mizutani/main.html>

BBS <http://koubunken.co.jp/mizutani/keij/html>

URL2 <http://sanctuarybooks.jp/mizutani/>

相手への思いやりが
キーワードと
感じました

☆著書紹介☆



『いいんじゃない いいんだよー大人になりたくない君へ』
水谷修・岩室紳也・小国綾子著 1,365円(税込み)、
2005年10月、講談社

『夜回り先生と夜眠れない子どもたち』水谷修著、
1,470円(税込み)、2004年10月、サンクチュアリ出版



若 者

□PEER(全4回)

主催: 遠見才希子

自分自身が中高生の時に聞いたかった性の話をPeer(仲間)の視点で紙芝居により分かりやすく語りました。現在聖マリアンナ医科大学2年生。

内容:

例年、休み時間に行われるエイズ基礎講座を変更し、今年は大学生によるピア・エデュケーションを以下の4テーマに分けて実際に行いました。

① 10代の中絶

日本では1日に約100人近くの10代の女の子が人工妊娠中絶をしています。中絶経験のある私の友人の手記を通して、この大きな数字を現実的に考えました。

② エイズ

PWHAである北山翔子さんとのトークセッション。「自分の経験を語る」性教育の効果からお互いの恋愛についてまで幅広く、本音のトークで盛り上がりました。

③ 高校生とセックス

私が実際に高校生に行っている紙芝居をお見せしました。大学生になった今、高校時代の自分の性を振り返って初めて気づいたことなど。

④ 若者をとりまく性情報

インターネットには卑猥な性情報があふれています。レイプ、買春、ネット上の掲示板に書き込まれた小学生の性体験などを紹介。

来場者感想:

お友達の、辛いけど誰かのためになりたいという思いに感動しました。/昨日のオープニングとは違った北山さんの一面を見られました。やはり顔を合わせた対話は話し手にとっても聞き手にとっても大切だと思いました。/PEERであるからこそ、の意味を考えさせられました。等身大のメッセージはとても訴える力があると思います。/若者を取り巻く状況に驚きました。

連絡先:

遠見才希子 E-mail emmskk@hotmail.co.jp

URL <http://blog.drecom.jp/emmi>

□今日のあるある! テーマは性活習慣病

主催: CAI

happy truckを運営。ピアスを移動販売しながらエイズ、性感染症の予防啓発を行っています。様々なイベントやお祭りに参加しています。

内容:

いかに世の中に性に関する情報が氾濫しているのかを、ワークショップ形式で検証していただきました。使用したのは週刊誌、ファッション誌、コミック誌、エロ本です。意外にきちんとした内容が盛り込まれていることに驚いたり、性情報がこんなにも簡単に手に入ることへの疑問などが挙がりました。中には初めてこのような情報誌を見る方がいらっしゃり、情報の氾濫について考えるいいきっかけになったと思います。我々の準備不足などが多少目に付きましたが、来年ぜひベンジしたいと思います。

来場者感想:

- ・「女性は男性を受け入れるもの」として描かれているものが圧倒的に多いのが何よりも問題と感じる。そういう情報ばかりから学んだ男女がどういう関係を築いていくのか・・・(東京都40代)
- ・切り口は面白いんじゃないでしょうか。討論ものは仕切りが上手だと面白くなるよね。来年もこのプログラム、あるといいな。(千葉県30代 NGO/NPO)

連絡先:

CAI (Campus AIDS Interface)

〒103-8337

中央区日本橋室町2-3-16 MBE143 CAI代表 渡部享宏

ブログ <http://blogs.yahoo.co.jp/happytruckjp>



Peer(仲間)で
あるからこそ



□デートDV予防ワークショップ

主催：NPO法人 エンパワメントかながわ

すべてのおとなと子どもの人権意識を高め、一人ひとりが尊厳を持って生きることのできる社会の形成のため、人権啓発活動を行うNPO（特定非営利活動）法人です。

内容：

どこにでも起こりそうな恋人同士のロールプレイを題材にして、10代のうちから芽生えるDVを予防するコミュニケーションスキルを、ワークショップ形式で考える。

参加者の感想：

いろいろな感じ方があるなーと思いました。年齢の違いによる意見交換が楽しく勉強になりました。すごく楽しかったです。他の講演と違って、実際に作業をしたりして、参加している実感がありました。劇はとてもおもしろかったです。コミュニケーションの大切さ、自分の意見を伝えることの大切さ、いろんな暴力のタイプに気づいた事。子ども達にも伝えたい。この授業を高校時代に受けてみたかったです。お互いの思いの相違がDVとなりうることもあるんだと思いました。自分の思いを伝えるようにしたいと思いました。構成も展開もしっかり練られていて、とてもすばらしいワークでした。“体験”することで、他ならぬ自分も当事者（被害も加害も）の1人なんだと発見出来ました。スタッフの皆さんがとても生き生きと取り組んでいるお姿も励みになりました！

連絡先：

〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-9-22日興パレス横浜204号
TEL 045-323-1818 FAX 045-323-1819
E-Mail kanagawa-cap-miracle@isis.ocn.ne.jp
URL <http://www15.ocn.ne.jp/~empkng/>



実際に作業を
したりして、
参加している実感が
ありました

□若者が危ない！！ 性感染症の攻撃

主催：特定非営利活動法人 AIDSネットワーク横浜

93年2月発足 エイズ予防啓発を目的とし映画、音楽会等を開催、出前講座、電話相談ボランティア学校を実施

内容：

エイズが性感染症の一つであることは、今日だれでも知っているが、一つ一つの性感染症について、理解している人はそう多くない。今回、個々の性感染症について、写真を通して分かりやすく解説。若者、実務家ならではの知識をユーモアたっぷりに教えて頂いた。常に性感染症を考えて行動をという当初の目的に叶った講座であった。

来場者感想：

- ・感染症の病名や症状は知っていても、実際の症状を写真で見ることにより、病気の恐ろしさをまざまざと思い知らされた。加えて、ヘルペスや膣の自浄作用など知らないことが沢山あって、本当に勉強になった。
- ・これからは、性感染症は他人事ではなく、いつ感染するか分からないのだ認識して気をつけようと思いました。エイズも気をつけようと思います。
- ・これからは、性感染症についての幅ひろい講座を開設して欲しい。
- ・性感染症を若者の事例を通して教えて頂いたので、自分も、他人事ではないのだと思いました。また、医学的な話だけでなく、豆知識なども教えて頂いたので、勉強になりました。

連絡先：

〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39尾上町ビル9階 横浜AIDS市民活動センター内
E-mail any@netpro.ne.jp URL <http://www.netpyo.ne.jp/~any>
tel 045-201-8808 fax 045-201-8809



□「外国での取り組みから—南アフリカのエイズ孤児院・2つのエイズ対策先進国」

主催：東海大学さうぼーなS・Africa／渡邊文隆・村上裕美子

東海大学さうぼーなS・Africa…南アのエイズ孤児院でボランティアした東海大学学生の団体。

渡邊文隆／村上裕美子…大学時代にそれぞれウガンダとブラジルに滞在し、写真を撮って日本などで写真展を開催。

内容：

- ①南アフリカのエイズ孤児問題についてのプレゼンテーション
- ②エイズ対策先進国と言われるブラジルおよびウガンダについてのDVD上映
- ③上記2つを踏まえ、参加者を交えてディスカッション。

参加者の感想：

- ・あたたかい雰囲気で行進されていて良かったです。ディスカッションも多くの人が各々の意見を出し合い、お互いの情報共有になったと思います(20代)。
- ・エイズ対策について、ウガンダ・ブラジルの2国の成功例があり、対策方法もその国独自であることを初めて知りました。これからもこの貴重な体験を多くの人々に伝えられることを願っております(20代)。
- ・本当に人とつながろうとする時、人はお互いにこころを開いていくことが大切だと思います。私も、本日感じたことは、私の周りの人へ伝えていきたいと思います(20代)。
- ・自分の家族やセクシャリティについて話す機会を設ける際の準備・配慮が少々足りないような気がした。学生さん含め、今後どう活動が広がっていくか、続いていくかが楽しみ(20代)。
- ・日常生活ではなかなか考えられないようなことを、沢山の方々の意見やDVDなどを通じて考えることができよかったです(20代)。

連絡先：

さうぼーなS・Africa:馬庭 spacemantomo@hotmail.com
渡邊文隆 incentivo_mundo@yahoo.co.jp

□アフリカと日本をつなげるピアエデュケーション～「アフリカ・ユース・HIV/AIDS」ってどうつながる？～

主催：アデオジャパン

保健所と協力し、出張授業を行ったり、さまざまなイベントでブース出展を行うことでHIV/AIDSの啓発を行っています。

内容：

アデオジャパンはそもそもアフリカ4カ国(ケニア・ウガンダ・シエラレオネ・スーダン)で医療・教育事業を展開する地域NGO「アデオ-ADEO」にて研修経験のある学生を中心に設立されたという特別な背景があります。そのため設立当初から「アフリカ・ユース・HIV/AIDS」を活動テーマに掲げ、HIV/AIDSの問題を日本国内だけでなくアフリカとの共通の問題であるとの認識の下に考えてまいりました。そのため私たちのピアエデュケーションにはアフリカでの活動から学んだことが強く反映されています。ワークショップではそうした背景を説明した上で、私達が実際どのようにピアエデュケーションを行っているのかをアデオジャパン独自のツール「恋愛シュミレーション」を使用しながら紹介しました。来場者感想はアフリカと日本が協力して行っているプロジェクトや「恋愛シュミレーション」に対する関心が多く見受けられました。

連絡先：

〒151-0073 東京都渋谷区笹塚1-38-9新緑荘103
<http://www.adeojapan.org/> info@adeojapan.org

本当に人と
つながろうとする時、
人はお互いに
こころを
開いていくことが
大切だと思います



教育

□心と心をつなぐ腹話術

～妊婦さんによる子どもから大人までを対象とした教育プログラム～

主催：JOINT HEART(畠山雅行・中井幸永)

思いのまま感じたことを伝えるために腹話術を用いたコミュニケーション方法を広めます。

内容：

母と子の絆を中心にAIDS・結核の知識を確認し、子どもから大人までを対象に妊婦さんによる腹話術を用いた参加型教育プログラムを実施しました。[1]リプロダクティブ・ヘルス/ライツとは？[2]中絶実施率・避妊[3]感染予防知識不足
[教育プログラム]①「わたし、お母さんになるんだね。」母性って何？いつから始まるの？→生まれてくる子どもに、どんなメッセージを送りますか。②「新しい恋人との出会い」母性って、本能？二人目の恋？→理屈抜きで、母と子の絆を考えてみよう。

[評価]①アンケート②自己③第三者 [まとめ]HEALTHY HAPPY FORUM

来場者の感想：

妊婦さんによる腹話術と参加型プログラムは参加者の反応がよかったので今後も活動し来年も参加いたします。

連絡先：

代表者 畠山雅行 Fax0743-78-9841 Email: m-hatake@m4.kcn.ne.jp

□共に生きるとは？

主催：プレイバックーズ 佐藤久美子

プレイバックーズ 会場にいる観客から現実に存在したストーリー（物語、場面）を聞き出し、それをアクターおよびミュージシャンが即興的に再現する演劇方法を用いた演劇集団

内容：

- ①今回参加するにあたっての思いを声と身体で表現する
 - ・午前中、すごく良い分科会でこれは使える・どんな出会いがあるか楽しみ
- ②自分が活動する中でのエピソードを語ってもらい、再現する。今回は以下の4つの話が語られた。
 - ・タイの施設で働くが日本人の横暴ぶりを聞き、悲しくなったが、陽性者である彼女が子供を支えに生きる話を私にしてくれて嬉しかった。
 - ・タクシーの運転手さんに売春ツアーでの横暴ぶり、女性軽視の態度を見せられ反論するも、聞き入れられず、怒り心頭だった。
 - ・学生時代やってきたエイズの活動を続けるために最適な仕事は何か？散散迷った挙句人生の選択をした。
 - ・今まで良かれと思い、平気な気持ちで「ストップザエイズ」のポスターを貼っていたが、陽性者の友人のお見舞い帰り、ふと彼らはどんな思いでこのポスターを見ているのか？一体何をやってきたのかと思った。
- ③今後どのような世の中にしていきたいかを聞き、声と身体で表現する。受容、思いやり、夢、リラックス、のんびりしている、想像できる。

参加者の感想：

- ・演劇的手法を使う事の大きな可能性を感じた。言葉がしっかり身体の中に入ってくる事はステキ。
- ・偉い先生もそれはそれで良いがそれよりもビンビンきた。即興っておもしろい。
- ・自分自身が気づかないうちに一線をひいてしまっている事を感じた。
- ・すごく楽しかった。

連絡先：

劇団プレイバックーズ 住所横浜市港南区東永谷1-15-30-305
http://playback-az.com e-mail: info@playback-az.com TEL 046-873-2521



受容、思いやり、
夢、リラックス、
のんびりしている、
想像できる



□ 性・エイズ教育、どんな展開してますか？ ～保健師による06年度版実践事例紹介＋α

主催：神奈川県厚木保健福祉事務所 富岡順子

内容：

神奈川県には「青少年エイズ・性感染症講演会」のシステムがあり、講演を希望する中学・高校に管轄保健福祉事務所より講師を派遣している。厚木保健福祉事務所の講演実施率は、中学校で7割、高校4割であり、主な講師は保健師である。今回、中学、高校の各プレゼンテーションについて講演を再現する形で紹介した。また、講師デビュー時の失敗談、改善への取り組み、講演時の留意点、参加者の講演実践談等を途中で織り交ぜ、参加者が身近な事例として取り入れ易い内容とした。

来場者感想：

有益な講演のために様々な工夫をしており、驚き感動した。(30代 教育関係) 実践例を大変わかりやすく楽しいトークを織り交ぜ伝え、とても参考になった(40代 教育関係) 日頃の自分の実践の確認になった(30代 保健医療関係) プレゼンが素晴らしい！話を聞いてよかった(40代 教育関係) 子供の実態に応じた性教育ができたらいいなと思う(20代 教育関係) 「効果的な展開」のスライドは本当に共感した。子育ての段階で私達が何か介入できたら良いなと思っている(30代 保健医療関係)

連絡先：

富岡順子：神奈川県厚木保健福祉事務所保健予防課 〒243-0004厚木市水引2-3-1
TEL:046-224-1111 FAX:046-221-4834



□Peer Education -心に響く性教育を-

主催：遠見才希子

自分自身が中高生の時に聞いたかった性の話をPeer（仲間）の視点で語っています。聖マリアンナ医科大学2年生。

内容：

どのように中高生向けのピア・エデュケーションの場を得ているかを説明した後、紙芝居を使って実際に中高生にしている性の話をしました。内容は、①高校時代の私②大学生になって、初めて過去の恋愛やセックスを考え直したこと③性教育を始めようと思ったきっかけ④中絶した友人の手記⑤性感染症の広がり など。数年前の自分を振り返りながら、若いからこそ話せる本音や自分の経験をさわやかに話すよう心がけました。

来場者にコンドームを3つ配布し、1つは今日感じたことを忘れないように持っておくように、もう2つは、恋人や友人や家族に今日の話を伝えながら渡してもらうようにしました。最後の約30分は、質疑応答など来場者の方との貴重な意見交換の時間になりました。

来場者感想：

今までオブラートに包んだ性教育しか受けてこなかった。真っ直ぐでこんなにも心に響く性の話を聞いたのは初めてだ。(10代・学生) 自分のことをありのままに語れる人ってすごく貴重。コンドーム、姉と姉カレに渡します☆(20代・学生) 経験談ってすごく説得力があるなーって実感しました。(30代・保健医療関係) 中学生でも十分通じる内容だと思いました。本当にチャンスを作り、本校の生徒に話してもらいたいと思っています。(40代・教育関係) 「大学2年生です」と言われたとき「なあ〜んだ」と思いました。でもその思いはすぐ消えました。「プロジェクターがなくてごめんなさい」と言っていましたが、むしろ話だけだと思いが直に伝わってきて良かったです。(50代・教育関係) 「経験早まらないで」というメッセージを改めて納得。原点に立ち戻ったようでとてもよいと思いました。(50代) 若さのすばらしさ！真実を語れることがすばらしいと思いました。(60代以上・教育関係)

連絡先：

遠見才希子 E-mail emmskk@hotmail.co.jp URL <http://blog.drecom.jp/emmi/>

真っ直ぐで
こんなにも心に響く
性の話を聞いたのは
初めてだ

私の視●点

聖マリアンナ医科大学
遠見 才希子



◆性教育

若い世代で語り合おう

性教育の重要性が叫ばれている。しかし、性教育の内容が、年齢や発達段階に合ったものであるか、受け手が理解し、納得しているか、といったことは、なかなか見えてこない。そこで、性教育の現場で活躍している若手世代の保健師や教育関係者を対象に、性教育の現状や課題、そして、若手世代がどのように語り合おうとしているのかについて、インタビューを行った。今回は、その中でも、性教育の現場で活躍している若手世代の保健師、遠見才希子さんに話を聞いた。

遠見才希子さんは、聖マリアンナ医科大学2年生。性教育の現場で活躍している若手世代の保健師として、性教育の重要性を訴えている。今回のインタビューでは、性教育の現状や課題、そして、若手世代がどのように語り合おうとしているのかについて、遠見さんに話を聞いた。

遠見：性教育の重要性は、昔から言われてきた。でも、性教育の内容が、年齢や発達段階に合ったものであるか、受け手が理解し、納得しているか、といったことは、なかなか見えてこない。そこで、性教育の現場で活躍している若手世代の保健師や教育関係者を対象に、性教育の現状や課題、そして、若手世代がどのように語り合おうとしているのかについて、インタビューを行った。今回は、その中でも、性教育の現場で活躍している若手世代の保健師、遠見才希子さんに話を聞いた。

遠見：性教育の重要性は、昔から言われてきた。でも、性教育の内容が、年齢や発達段階に合ったものであるか、受け手が理解し、納得しているか、といったことは、なかなか見えてこない。そこで、性教育の現場で活躍している若手世代の保健師や教育関係者を対象に、性教育の現状や課題、そして、若手世代がどのように語り合おうとしているのかについて、インタビューを行った。今回は、その中でも、性教育の現場で活躍している若手世代の保健師、遠見才希子さんに話を聞いた。

□教育関係者のための朗読ワークショップ

主催：H.I.Voice Act(桜屋伝衛門+岡島龍彦)

H. I. Voice誌からの抜粋文を輪読し、HIV/HIDSに影響を受けた人たちの声を聞き、共感の輪を広げる

内容：

学校における効果的なエイズ教育の手法としての、朗読ワークショップを体験してもらいました。また様々なスタイルの実践例もDVDで紹介した。

参加者の感想：

- ・HIVに感染することそのものについて考えさせられた。(神奈川県/20代/学生)
- ・体験してみないとわからない!! というのがすごい。(神奈川県/30代/教育関係)
- ・直接足を運び、参加し、体験する。まさにフォーラムの醍醐味(東京都/30代)
- ・色々な側面から気づき、共感し、大切な人間関係につながる(千葉県/30代)
- ・中学生へのアプローチとして大きな効果があることを実感。(神奈川県/40代)
- ・AIDS、依存症への偏見、性のありかた、大人がもっと知るべき。(神奈川県/40代)
- ・厚生省を人の輪でとりかこんだ日を思い出した。(東京都/40代/教育関係)
- ・心にとどく、伝達をしたいなと思いました。(千葉県/40代/保健医療関係)
- ・朗読は心がなごんだタイミングでできることができた。(岐阜県/40代/教育関係)
- ・疲れていたので穏やかな励ましにいやされました。(神奈川県/50代/教育関係)
- ・小グループだと参加して本音で話ができるかな。(神奈川県/50代/教育関係)
- ・聞いて前向きで生きて行こうという感じがしました。(神奈川県/60代以上)

連絡先：

岡島 龍彦 e-mail tatu-hiko@mpd.biglobe.ne.jp 携帯070-6656-8860



参加し、体験する。
まさにフォーラムの
醍醐味

□HIV/AIDS教育で使いたいPower Point教材

主催：(社)地域医療振興協会 岩室紳也

内容：

教科書にはHIV/AIDSの記載があり、教師の参考資料の中にも授業の組み立て方に関する情報は少ない。しかし、実際に授業を組み立てようとするとき必ずしも情報や資料が十分とはいえない。学校現場で教師や保健医療関係者が講義の中で使えるようにとの思いでPower Pointを作成し、毎年このフォーラムで紹介し、ホームページで公開している。今年はさらにバージョンアップしたPower Pointを用いた授業の組み立て方を紹介した。

来場者感想：

普段教育現場でPower Pointを用いていますが、こんなにinteractiveなメディアになるものとは知りませんでした。衝撃的でした。(教育関係、20代)。自分の経験から伝えたいことがたくさんあります。少しずつ整理しながら、自分で出来る性教育を目指していきたいと思います(保健医療関係、30代)。「分かったような顔をして話しても子どもは聞かない」というのが納得でした(20代)。ただAIDSの知識を提供するだけではないいけないことがわかった。1つ1つ丁寧に根拠を伝えていくこと。教える側の伝え方のテクニックも重要だとわかりました(教育関係、20代)。

連絡先：

岩室紳也：〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-1 日本都市センター9階
(社)地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター

TEL： 03-5275-1051 FAX： 03-5275-1052 紳也's HP：http://iwamuro.jp/
(HPからPower Point教材がダウンロードできます。岩室へのメールや講演の申し込みもできます)

□地域が変わる！「性」＝「生きるための心」の教育

主催： PNY[Peer Network Yamagata]

内容：

「性」教育は、「生きるための心」の教育。地域を変えるプログラムや手法を知り、一緒に検討しました。

来場者感想：

- ・高校では性とかエイズのことをあまり教えてもらってないなあと感じた。日本の直さなくてはいけない部分のひとつだと思う。(10代、学生)
- ・みなさんの活動やたくさんの意見に圧倒されて終わった感じだった。楽しかったけどもっと自分で考えたり活動してみたいと思いました。(20代、学生)
- ・地方地域ほど情報の伝達と地域の認識のギャップがよく見えました。誰が伝える誰のための話し合いが必要か分かりました。(30代、NGO/NPO)
- ・わかりやすく興味ひかれる内容で2時間があったという間に過ぎてしまいました。これまで人工妊娠中絶率のデータ等を目にするたび、つらく思っていました。コンドームの使い方なんていう内容も大切だとは思いますが、子どもたちは「性交していいんだあ」と勘違いしないか・・・？という思いがありました。今日話をお聞きして小さな時から(特に家庭で)の教育が必要だなと強く感じました。ありがとうございました。

連絡先：

わたらい
代表 渡會睦子 E-mail : mutsuko@mub.biglobe.ne.jp
〒154-8568 東京医療保健大学 東京都世田谷区世田谷3-11-3

□新作DVD上映「HIV/エイズってなに？」

主催： ケーシーズ (監修 岩室紳也)

内容：

HIV/AIDS啓発用DVDを上映

①感染の仕組み編 ②HIVと共に生きて編 ③社会・Q&A編

来場者感想：

- ・HIVとエイズの違いが分かった。(知り合い/神奈川県/10代/学生)
- ・意外と知らないことが多かったので、新しく知識を得ました。(無記入/神奈川県/20代/学生)
- ・ピルのことについて詳しく聞けてよかったです。(知り合い/新潟県/20代/教育関係)
- ・HIV感染者からの話を聞くことができよかったです。(知り合い/新潟県/20代/教育関係)
- ・途中から観たのですが(AIDSを考えよう)、CGの映像で、少し物足りなさを感じました。でも内容的にはわかりやすく良かったです。(知り合い/新潟県/20代/教育関係)

連絡先：

株式会社ケーシーズ 〒080-0801 帯広市東1条南8丁目2 勝毎ビル 3F
TEL : 0155-25-8739 FAX : 0155-21-7800 E-mail : kcs@tokachi.co.jp
URL : <http://www.tokachi.co.jp/kcs/>

岩室紳也 ☆書籍紹介☆

『HIV/エイズってなに？』全3巻、DVD ①感染のしくみ編 21,000円
②HIVと共に生きて編 21,000円 ③社会・Q&A編 21,000円、ケーシーズ

『エイズ 性感染症とその予防』ビデオ、16,800円、
『エイズ いま、何を、どう伝えるか？』1,200円+税、大修館書店
『思春期の生と性 わたしたちのエイズ』250円+税、日本家族計画協会



小さな時から
(特に家庭での)
教育が
必要だなと
強く感じました



□「自分を大切にする」ということーエイズ予防教育の実践紹介ー

主催: 山田七重(健康教育アドバイザー)

中・高校生への講演活動。山梨県・神奈川県内の性感染症予防パンフレット「じぶんたいせつぶっく」の著作担当。

内容:

身近には捉えにくいエイズの問題を、等身大の問題として子ども達が捉えられるようにするための、子ども達の目線からはじめるエイズ予防教育の紹介。

来場者感想:

実際のプレゼンテーションの方法・生徒の心に響く話しかけ方等を教えていただいた(40代)、ぜひパワーポイントを岩室先生のようにネットにのせて下さい(40代)、子ども達に与えるのではなく、子ども達に考える機会を提供する教育の方法を学べた(40代)、1人の人間として子ども達に向き合っていくところが印象的だった(40代)、ここまで危機感を持てる性教育を受けてこなかった。もっともこのような教育が必要(10代)、とてもわかりやすくて良かった・細かいけど、ゆっくりですごく面白かった(10代)、ふだん私の学校で教えてもらえないことを実際の授業のように教えてもらうことができてよかった(10代)、言葉づかいが気になる場所があった(10代)

主催者感想:

・・・ご来場下さった皆様に、心より御礼申し上げます。たくさんの励ましや貴重なコメントをいただき、私自身、多くのことを学ばせていただきました。今後、改善を重ねつつ、より良い実践へとつなげて行きたいと思います。

連絡先:

山田七重 e-mail ynana@yamanashi.ac.jp
FAX 055-273-7882 (山梨大学社会医学講座)

□エイズ教育の役割分担 教師が教えること、医者が語ること

主催: 安藤晴敏 岩室紳也

内容:

医者はコンドームを使わなかった、エイズ検査を受けなかったために感染した人たちの診療をし、とにかく何とか予防を徹底したいと思うが、予防教育の最前線にいる教師は学習指導要領を基本とした授業展開を求められている。一見思いが相反する医者と教師がいま、エイズ教育の中で何をとり上げる必要があるのか、どのような授業が求められているのかを昨年に引き続き検討し、授業を組み立て、その実際を紹介した。

来場者感想:

子供の置かれている状況がわかっていないなと改めて感じました(40代)。日々学校で感じているコミュニケーション力の低下が、いかに問題か改めてわかりました。もっと子どもたちに語りかけていきます(40代、教育関係)。大事なことは昔も今もかわらないのかもしれない(30代、教育関係)。教師を目指して勉強しています。「生きる力」、「心の教育」等、教育界のキーワードととてもリンクしている内容であることを意識して、子どもたちに伝えたいと思います(20代、学生)。

連絡先:

安藤晴敏: 神奈川県立津久井高等学校 〒220-0209 津久井郡三ヶ木272-1

TEL: 042-784-1053 FAX: 042-784-7960

岩室紳也: (社)地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-1 日本都市センター9階

TEL: 03-5275-1051 FAX: 03-5275-1052 紳也's HP: <http://iwamuro.jp>

(HPからメールや講演の申し込みができます)



子ども達に
与えるのではなく、
子ども達に
考える機会を提供する
教育の方法を学べた

外部講師(?)の役割

当事者性
関係性
事例性



□北沢杏子の「エイズの授業」

主催：性を語る会

1987年設立。代表 北沢杏子。講座、機関紙の発行、各種イベントの開催。

内容：

自作のパネルや教材を使い、小学生から一般の方々に解かり易い「エイズの授業」を展開。今回新作ビデオ・からだを守る保健行動Q&Aシリーズ「正しく知る！性感染症・エイズQ&A」（20分）を上映。

来場者感想：

- ・普段つまこんでくれないところまで教えていただいたので助かりました。(10代、学生)
- ・STDがすごく身近にあることを感じ驚きました。10-20代の若者が性教育を受けていないことで危険にさらされているので、少しでも学校や地域で性教育が行えればいいなと思いました。(20代、学生)
- ・20代の男性女性がコンドームのつけ方を実演してましたが、正しいつけ方をスムーズにできていないのを見て、やはりコンドームの正しいつけ方はどこかで若いときに伝えるべきだと思いました。(30代、保健医療関係)
- ・学校の指導内容の壁がとて大きく性教育もやりにくくなりました。今後も先生のような方に頑張ってよい講演をして頂きたいと思います。人形劇や掲示物も参考になりました。現実の男性の意見も興味深かったです。(40代、保健医療関係)

コンドームの正しいつけ方10ヶ条

- ① 使用期限を確かめる
- ② 持ち運びはハードケースで
- ③ 爪は切ってあるか
- ④ 袋の中央に入っているコンドームを下に寄せる
- ⑤ 切り口は、いっきに切り取る
- ⑥ 裏表を確かめる
- ⑦ 精液留めの空気をぬく
- ⑧ 静かに巻き下ろす
- ⑨ 射精が終わったら、速やかに撤去する
- ⑩ 生ゴミとして処理する

(性を語る会 資料より)

連絡先：

性を語る会 事務局 島沢二三子 東京都世田谷区用賀3-5-6アーニ出版内
 TEL 03-3708-7326 FAX 03-3708-7324 Email shima@ahni.co.jp

北沢杏子☆著書紹介☆

- 『ノー！といおうシリーズ全2巻』アーニ出版
- 『親と先生のための性教育Q&Aシリーズ全3巻』アーニ出版
- 『エイズとSTD(性感染症)』岩崎書店

STDが
 すごく身近にある
 ことを感じ驚きました

AIDS文化フォーラムin横浜
 オリジナルグッズ！！



ハンドタオルも

購入は：<http://homepage2.nifty.com/iwamuro/abfgoods.html>

から

新企画
Dr. IWAMURO + MOTAI
オリジナルネクタイ
 ORIGINAL NECKTIE
 岩室伸也先生…プロデュース
 もたいひでのり…デザイン

・リボンタイプ
 ・キャラクタータイプ
 2種類

販売中

セクシュアリティ

□「同性愛カミングアウト無料電話相談」実施6ヶ月報告

主催：アイデンティティハウス

同性愛者の社会的地位向上のための教育・啓発活動

AGP（同性愛者医療・福祉・教育・カウンセリング専門家会議）：同性愛者が、社会と自分自身の内面において充実した生活を送れるよう、手助けとなる必要な情報やサポートを専門分野の知識と技術を活かして提供。

内容：

身近な人が同性愛者であることを知って悩んでいる方々のための「カミングアウト無料電話相談」活動の報告。また、同性愛者のカミングアウトというテーマにあわせて、AGP教育子ども分科会代表の石坂わたる&パートナーのNOVさん、お母様のモモさんに取材した、名執たいすけ監督のドキュメンタリーフィルム、「一緒ネ！」を一部上映し、親へのカミングアウト、同性愛者が社会の中で目に見える存在になっていくことの意義、必要性、そのためのアクションなどについて質疑応答&ディスカッション

参加者の感想：

同性愛について悩んでいる人は多くいるがまだまだカミングアウトどころか話を聞いてもらえる所がなかったり、知らなかったりするものが現状なので広報していく必要がある。自分が同性愛者なのかわからず悩んでいる学生もいるように思います。人間の性に多様性のあることを学校の教育でも教える必要性もある。同性愛をめぐる周囲の無理解があることをいまさらながらに感じました。

連絡先：

アイデンティティハウス かじよしみ 〒214-0008 川崎市多摩区菅北浦1-4-1

Tel. 090-7234-8064 <http://identityhouse.blogzine.jp/yoshikaji/>

E-mail: ykaji@crocus.ocn.ne.jp

AGP教育子ども分科会 石坂わたる 〒164-0001中野区中野5-24-16中野第2コーポ

601「LOUD」気付 Tel. 03-3319-3203 <http://www.agp.online.jp/>

E-mail: mail@agp-online.jp



人間の性に多様性の
あることを
学校の教育でも
教える必要性もある

コラム

実は、神奈川県庁のインターンシップに参加するまで、横浜で毎年『AIDS文化フォーラム』が開催されていることを私は知りませんでした。加えて、AIDSについても「病気」として基本的な知識を持っているにすぎず、身近で実際に存在する「問題」としてAIDSを捉えることが出来ませんでした。しかし、文化フォーラムに3日間参加させていただいて、多くの展示や幅広い講座から、今までのAIDSに対する認識が180度変わりました。また、この『AIDS文化フォーラム』で出会った多くの方々が、様々な事柄を教えて下さったり、仲良く話して下さったり、共に活動したりして下さったことは、私にとって、人間として成長できるきっかけとなる貴重な出来事となりました。これからも何らかの形で『AIDS文化フォーラム』に参加し、問題意識を忘れずに活動していきたいと思っています。

2006年 神奈川県庁 健康増進課インターン生 磯村友美

医療

□医療関係者のための朗読ワークショップ

主催： H.I. Voice Act+プロジェクトY

YMCA ACTのユースリーダーたちによる中高生向けのコミュニケーション能力育成プロジェクト

内容：

HIV/AIDSに関わる様々な立場の人たちの声を聞き、思いを知り、医療関係者同士でシェアする事、また専門職とAIDSを学びはじめた中学生が出会う事で、相互の「気付き」を目的としたが、実際に集まったのは、ほとんど中高生で、医療関係者がごく一部に限られたため、当初の目的は果たせなかった。

参加者の感想：

- ・マッサージから始まり、身体を動かしたり、話をしたりして場に馴染むことができました。初めて出会った方ともとても仲良くなりました。(神奈川県/10代)
- ・自分の持っていたHIVの印象は否定的なものだったが、この機会が違うということも知る事も出来ました。(東京都/20代/プログラマー)
- ・感染者の心を知るという貴重なワークショップだった。(神奈川県/30代/NPO)
- ・医療関係者の出席が少ないことに驚いた。実際現場で働いている保健師や看護師の生の声が聞きたいと思い参加した。広報を!(埼玉県/30代/保険医療者)
- ・医療関係者にもっと参加を呼び掛け、病気でなく、HIVに影響を受けた人たちに思いをさせ、身近に感じていってくれればと思う。(神奈川県/50代/医師)

連絡先：

岡島 龍彦 e-mail tatu-hiko@mpd.biglobe.ne.jp 携帯070-6656-8860

□針刺し損傷の予防と対応

日本BD株式会社 セーフティーマネージャー 細見由美子

主催： 神奈川県保険福祉部健康増進課

神奈川県ではHIV/AIDSに携わる保健・医療・教育関係者等に、包括的援助のための研修や、針刺し損傷時の感染予防薬の支援を行い、HIVの相談・検査・医療等の体制を整備しています。

内容：

患者を感染から守るためにも医療従事者の針刺し損傷予防は重要です。また、感染症の有無に関わらず、全ての患者ケアに際して「標準予防策」に医療施設全体として取り組むことで、HIV感染者に対する診療拒否はなくなるはずで、医療従事者の感染予防に携わる細見由美子氏(日本BDセーフティーマネージャー)から、具体的なお話をいただきました。その中で、厚生労働省のHIV感染症の歯科診療マニュアルと院内感染防止に関する留意事項、国立国際医療センターの医療事故後のHIV感染防止のための予防服用マニュアルを紹介しながら、医療従事者の職務上HIV感染者数や訴訟事例を織り交ぜて臨場感のある講演でした。また、エピネット日本版の針刺し切創報告書の活用方法が紹介されました。日本ではリキャップ禁止の徹底や廃棄容器の適正配備が不十分で、針刺し損傷防止機構付の安全器材導入の普及率がアメリカに比べて低いため、病院機能評価項目を活用し、厚生労働省の通知に順ずる体制整備が望まれます。参加者の声には、医療現場の問題を理解できた、国として真剣に取り組まなくてはいけない、関係者に徹底していきたい等の感想が寄せられました。

来場者の感想：

医療現場がかかえる問題がこんなに大きなものであったことに驚きました。しかし、HIV、HBV、HCVなどの病気を考えると当然です。国がもっと真剣に取り組む対策であると思った。教育段階(学生)での徹底をすすめるべきである。

(50代・教育関係) 針刺しの危険性を再認識しました。組織として100人が100人意識をもって活動、行動できるよう対策を講じなくてはいけないと思いました。とても勉強になりました。(30代・保健医療関係)

連絡先：

神奈川県保険福祉部健康増進課エイズ・感染症対策班 八木下しのぶ
〒231-8588 横浜市中区日本大通1 TEL: 045(210)4793 (直)

感染者の
心を知るとい
う
貴重な
ワークショップだった



□HIV感染症:その現状と患者の人生(QOL)

主催:横浜市立大学医学部看護学科教授 医師 白井輝

横浜市立大学附属病院はエイズ治療拠点病院としてHIV感染症、エイズ患者の診療に従事しています。専門の医師、看護師、ソーシャルワーカー、カウンセラーなどメディカルの協力のもとに最先端の情報および治療を提供しています。また、他科ともお互いに協力して集学的医療を実践しています。

内容:

医療の進歩によりエイズ=死ではなくコントロール可能な慢性疾患となった現在、HIV感染者でも病状が進行せず元気に過ごす人、母子感染させずに無事出産した人、など普通と変わらない人生を歩んでいる人も多くいます。その一方で患者の立場でないとは分からないさまざまな生活上の問題もあります。薬の影響で夜間勤務に支障をきたした人、差別偏見で辛い思いをした人、歯科治療を拒否された人、などさまざまな例があります。感染症になったのは必ずしも個人の責任ではなく、社会に感染症が有ること自体が問題なのであり、皆で理解し支えあう社会であることが必要です。最後に、これからの若年者の感染予防対策への提言として、今日の男女交際の実態をふり返り、「コンドーム」以前の問題として豊かな人間愛の教育が基本であり、「コンドームよりは愛を」こそがまず唱えられるべきです。参加者の声には、データや感染者事例を交えてイメージしやすく、考えさせられる内容だったとの感想が多く寄せられました。

連絡先:

白井 輝 横浜市金沢区福浦3-9 横浜市立大学附属病院 リウマチ・血液・感染症内科 TEL: 045-787-2800

□エイズ感染爆発とSAFE SEXについて話します

主催:国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター 本田美和子**内容:**

現在日本では、アフリカ・アジアの途上国の抱える問題の一つとして紹介されることが多いHIV・AIDSですが、普通の生活を送っている一般の人々に静かに浸透しつつあります。ごく普通の人々に広がっている性行為感染症のひとつとしてのHIVについて、「自分を守る」ためにはどうすればいいのか、という観点から、日本の現状などの疫学、診断に至るまでの代表的な体調の変化、現時点での治療、アジアや米国の疾病対策などについて紹介しました。

来場者の感想:

- 10代学生: 難しい言葉が少なくわかりやすかった。
- 20代学生: 今後少しでも社会的に認知度が上がるよう行動していきたいと思う。
- 30代会社員: 近いうちに夫と共に検査を受けてみようと思った。
- 30代会社員: 「自分を守る」ということを多くの人へ伝えていきたいと思った。
- 30代教員: 知識は何度も繰り返して聞くことが大切だと思った。
- 40代NPO: 知識を伝えていくことが予防につながることを改めて確認した。
- 40代教員: 最終的には「自分を守る」ということが一番大切だと思った。
- 50代教員: 専門的な話がよくわかった。

連絡先:

国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター
東京都新宿区戸山1-21-1 電話03-3202-7181(代表) URL: <http://www.acc.go.jp/>

本田美和子☆著書紹介☆

『エイズ感染爆発とSAFE SEXについて話します』 本体980円+税 朝日出版社、2006年5月25日発売

エイズウィルスは人を選びません。このままだと、ものすごくたくさんの人が感染してしまう。感染爆発を目前にあなたができることは? 特效薬はきちんと知ること。あなたと、あなたの大切な人を守るために。



自分を大切に
することは
自分の大切な
人も守ること



社会問題



□薬害エイズから薬害肝炎／薬害は繰り返される

主催：薬害エイズを考える山の手の会 地域における薬害エイズの啓蒙活動

内容：

薬害エイズ被害者（治療のため投与された血液製剤によりH I V感染した被害者）と薬害肝炎被害者（治療のため投与された血液製剤によりH C V感染した被害者）、薬害エイズ訴訟・薬害肝炎訴訟を担当した弁護士、医療問題に詳しい新聞記者と共にシンポジウム形式で薬害エイズ問題・薬害肝炎問題の過去・現在・未来を語り合う。後半は参加者も交えてフリーディスカッション。

来場者感想：

- ・繰り返される薬害について被害者本人から生の声で訴えを聞き有意義な集いだった。
- ・国や製薬企業の責任を認めない態度に怒りを感じた。
- ・自分がエイズだったらどう生きたか考えさせられた。
- ・今まで知らなかった患者さんやA I D Sのことについて知ることができた。
- ・薬害の構造を改善するには国民の教育が必要。
- ・薬害の無い世界をつくるためには一人一人の気持ちが大切。
- ・国民の健康を守る責務を負っている国が逆に国民を病気にしてしまうこの国は滅びてしまうのではないか。

連絡先：

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-26-12-103

薬害エイズを考える山の手の会 江川 守 利

T E L & F A X 03-3364-3733 携帯電話 090-3682-1767

uy53814@blue.b-city.net <http://yamanote.hp.infoseek.co.jp>

やはり家族の
コミュニケーションが
一番大切なのだ
と
思いました

□今、学校では・・・現場の声は・・・(性・酒・薬物・タバコ・ころ)

主催：安藤晴敏

内容：

今、児童・生徒は苦しみ、彷徨い、闘っている。家族・家庭や世の中の価値観の変化、選択ができなくなる情報化社会の中で子ども達は迷いの中で、自分の生き方を探している。自分を認めてくれない。自分を褒めてくれない。自分の存在すら分かってくれない。心に大きな大きな隙間ができ、そこに満足できない一人の自分を見ている子ども達。心の隙間を埋めるための一つの手段として、「優しい言葉」やS E X・薬物がある。

学校現場にいる教員と生徒の陰の姿を知る養護教諭が、その実践を紹介し、彷徨う子ども達へのアプローチ、言葉かけを紹介。子ども達が「言葉」を待ち、そんな「言葉」で自分を探し、そんな教師のパフォーマンスで自分を見つめ直し、自分の心の隙間を少し埋めている。

来場者の感想：

- ・親として、行政職員として、参考になるお話でした。やはり家族のコミュニケーションが一番大切なのだと思います。親の意識をかえるにはどうすればよいか…(神奈川県/30代/保健医療関係)
- ・“熱い”ということは大事なこと、思いを大切にしたい指導をしていきたいと感じました。(静岡県/30代/教育関係)
- ・現在中学の養教です。中学校でも同じ状況が日々の生活の中であります。親については、変えてあげることができないのがもどかしいと感じる毎日… 中学を卒業して、母親、父親になる子ども、本当にそれでいいのか？ 親はどう考えているのか(神奈川県/40代/教育関係)
- ・学校現場での取り組みやご苦労がよくわかりました。保健福祉センターの保健師として、各学校と連携をとりたいと思っていますが、学校によってだいぶ温度差があるのを感じております。(神奈川県/40代/保健医療関係)

連絡先：

安藤晴敏：神奈川県立津久井高等学校 〒220-0209 津久井郡三ヶ木272-1

TEL： 042-784-1053 FAX： 042-784-7960



文化

□映画上映会『向日葵』&『HANDS』

主催：横浜Cruiseネットワーク

神奈川県内のMSM (Men who have sex with men) を対象とした予防啓発活動

内容：

同性愛者がHIVとどう関わっているのか理解してもらうことを目的に、名古屋のNLGR (検査イベント) が制作した映画『向日葵』と『HANDS』の上映とNLGRの紹介を行った。

来場者感想：

- ・同性愛者の人たちがまだまだ社会の中で理解されていないと思いました。そんな中で仲間同士支え合っていることがよくわかりました。少しでもそういう人たちが普通に生きられるような社会が来るよう応援したいと思います。
- ・自分が関わっていない社会でいろいろなことが起きている現実を身近に知る事ができました。
- ・教育現場でも小さいうちから性同一性障害かもしれないと思われる子がでてきてます。まわりの大人や社会がどのように接していけばいいのか模索中です。
- ・ゲイやレズビアンは小さいうちはあまり意識はありませんが、大きくなるにつれて社会や中・高校の中で生きにくくなっているのではないのでしょうか。
- ・映画を観て、自分がエイズだと家族や友達に打明けることは、とても勇気がいることだと思った。支えてくれる人がいるのといないのでは全然違うと思った。

連絡先：

横浜Cruiseネットワーク info@y-cru.com <http://www.y-cru.com/>

□映画上映 夢のゆくえ～取引される少女たち～

主催：国際移住機関 IOM

内容：

映画上映 「夢のゆくえ」IOM製作 人身取引対策アニメーション

「夢のゆくえ -取引される少女たち-」は主に東南アジアの青少年向けに制作した、人身取引についてのアニメーションです。同地域での若者の人身取引への意識を高める活動や、被害者の社会復帰支援、入国管理局などの政府関係者やNGO職員向けのトレーニングで使用されています。「夢のゆくえ」(原題：“Shattered Dreams”)のオリジナルはIOMバンコク地域事務所が制作したもので、日本語以外に9つの言語に翻訳されています。

来場者感想：

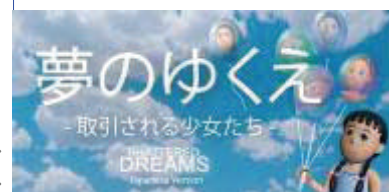
- ・よくわかりました。(神奈川県/10代/学生)
- ・日本人が深くかかわっていることが知れてよかった。(神奈川県/10代/学生)

連絡先：

国際移住機関(IOM)駐日事務所 03-3595-2487 <http://iomjapan.org/index.cfm>



日本人が
深くかかわっている
ことが知れてよかった



◆「夢のゆくえ」はアニメだったので中学生や高校生にもわかりやすい内容になっていた。◆
◆ロビーの展示では無料でコンドームや高校生向けのエイズ理解のためのパンフレット◆
◆冊子などもあり、いただいて帰りました。AIDS文化フォーラム開催をもっと高校生によ◆
◆びかけて促すべきだと感じた。駅などにポスターを貼ったり広告して参加者を増やすよ◆
◆うにしてはどうか？県が共催や後援しているのだから県内の学校全てに広告活動もし◆
◆てほしいです。世界の中での日本の状況や、世界のエイズの実態なども知ることがで◆
◆き、勉強になりました。(厚木ホサナ保育園 保育士)

□ 世界がもし100人の村だったら～HIV/AIDSバージョン～

主催：横浜YMCA ACT

内容：

「世界がもし100人の村だったら・・・HIV/AIDSバージョン」は、HIV/AIDS患者・感染者を「世界がもし100人村だったら・・・」のワークショップのように伝えることができないか？と考え出したものです。「世界がもし100人の村だったら・・・」のワークショップを交えながら、HIV/AIDSの基礎知識、世界のHIV/AIDS患者・感染者等の数字を分かり易く伝え、体感的にとらえ、原因を考え、世界の現状理解を深めてもらえるワークショップです。

来場者感想：

- ・具体的な数字でHIVの事を知ったのはすごく衝撃的だった(神奈川県/10代/学生)
- ・動いて目にして事を体験できたのでよかったです。とても勉強になりました。(神奈川県/10代)
- ・茶が飲みたかった。(神奈川県/10代/学生)
- ・かくれて薬(ビーズ)をのむのはつらかった。(神奈川県/10代/学生)
- ・AIDSバージョンのはとてもわかりやすくてよかったです。(神奈川県/10代/学生)
- ・今回は保健委員の関係で参加させていただいたのですが、内容が非常に興味深いものになっていて、とても楽しかったです。機会があればまた参加したいと思います。(神奈川県/10代/学生)

連絡先：

横浜YMCA ACT 〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-25-1
TEL 045-316-1881 FAX 045-314-6805



動いて
目にして
事を体験できたので
よかったです

□「一服のお茶から」

主催：神奈川県立舞岡高等学校 茶道部

発表内容：呈茶 入場者 155名

8月5日(金)、6日(土)の2日間、展示会場にて呈茶をさせていただきました。「おいしいお茶でした」「また来年もお願いします」等、暖かいお言葉をかけていただき、このフォーラムで今年も呈茶ができたことを嬉しく思っています。また、オープニングセレモニーや分科会にも参加し、HIVやエイズについて自分たちなりに考えることができたようです。今回参加した生徒は16名ですが、ここで知り得た情報を身近な人へと伝えていくことで、正しい知識はさらに多くの人へと普及させてくれると思います。なお、利益は「ユニセフ」へと全額寄付させていただきました。関係の皆様のご尽力とご配慮に深く感謝いたしております。

連絡先：

神奈川県立舞岡高等学校 茶道部 茶道部顧問 浮田 規子
〒244-0814 横浜市戸塚区南舞岡3-36-1 TEL 045-823-8761



◆ 2006年AIDS文化フォーラムの閉会式

◆ 横浜ダルクケアセンターによる
琉球太鼓！！

今年も会場内に素晴らしい太鼓の音が響きわたり、ショーを堪能しました。その力強い調べに勇気づけられたひと時となりました。



人 権

□ワークショップ「W.YokoのHow to Make 'AIDS WORKSHOPS' ?」

主催:エイズを伝えるネットワーク(TENCAI)

HIV/AIDSの啓発を軸に、多様な価値観をつなぐコミュニケーションやセルフ・エスティーム、こころとからだの気づきを促すワークショップを開催しています。

内容:

3コマ連続受講すると、ファシリテーターとしての基本的な考えを押さえることができる「AIDSを伝える」ワークショップ講座。文化フォーラムでの開催は3年ぶり4回目。すべて受講した人には修了証が授与される。(今年の修了者は2名)内容は、午前:ワークショップの概論、午後:ワークショップの実践、夕方:ワークショップのケア、と異なる内容の連続講座であることが分かりにくい広報で、参加者から「連続講座であるともっとわかるようにすべき」と指摘された。今後改善していきたい。

参加者感想:

ファシリテーター自身も「ゆらぐ」ことがあるけれど、常に安全な「場」を保ち続けることが大事だというのは、肩ひじ張らなくても良いというメッセージかな? / 「自分の自信のなさが相手にも伝わってしまう」決して忘れないと思う。今後も頑張ろうという気持ちにさせてもらった。 / いろいろな方向から考えるということが、頭でわかっているもつ結論ありきになりがちに自分に気づかされました。 / それぞれの参加者の思いを語る時間も、参加者のニーズもくみとっていただけました。 「ワークショップには落としどころがない」というのが印象的でした。

連絡先:

エイズを伝えるネットワーク(TENCAI)

〒101-0021千代田区外神田2-1-11 松住ビル2F B 室 わかばてい2内

<http://www.tencai.jp> E-mail: mail@tencai.jp



なんだか、
やりたく
なっちゃう

絵を描くことが大好きな私は、絵を通じてフォーラムに参加させて

戴いております。毎年感じる感想の中に、「フォーラムに参加したい」

という自分の気持ちがありますが、ボランティアが指す志願する

気持ちが途絶えないからでしょう。義務ではなく、「なんだか、やりたく

なっちゃう。」そうした気持ちが芽生え、そして芽生えさせてくれた皆様に

感謝するばかりです。これからも、楽しく参加いたしますの

で、皆様よろしく

お願いいたします。

イラストのご要望も、どしどしどうぞ!

——もたいひでのり



PHA/PWA(HIVと共に生きている人)

□若者たちのセクシャリティとエイズ

主催：ひさおの部屋サイト

内容：

発表内容 HIV感染者のホン ヒサオと中学の養護教員とのトークを行いました。
今の現状、子どもたちの性教育、エイズ教育など。
最後にHIV感染者のホン ヒサオへの講師依頼のお願いを発表しました。

来場者感想：

ボランティアグループの継続は、大変むずかしいことだと思う。それを、長年続けてこられるパワーに敬服します。人の出会いも学びなのかなと考えさせられる場でした。(40代保健医療関係者)

誰でもそうですが、認められたり人のために活動することは、免疫力を高めることを知りました。薬の進歩もすごいですね。(40代教育関係者)

ホンさんから直接話を聞くことができ、感染からカミングアウトして、様々な活動を行っているたくましさを感じました。同性間の感染者も希では無いことを知り性教育の大切さも実感しました。(20代教育関係者)

洪久夫さんの心に響くお話とってもよかったです。たくさんのメッセージがつかまっていて、胸がいっぱいになりました。養護の先生のお話をきいて、子供は社会の変化をダイレクトに受ける存在なんだと改めて考えられました。(20代学生)

連絡先、講師依頼のお問い合わせ：

〒164-0012東京都中野区本町6-17-12フローラ新中野202
電話、FAX 03-3384-0549 URL <http://www.interq.or.jp/www1/hon/>



HIVに感染して、
自分と向き合い、
周りに感謝して
生きている

□神様がくれたHIV

主催：北山翔子

『神様がくれたHIV』（紀伊国屋書店）著者。

内容：

アフリカのタンザニアでボランティアとして活動する間に恋人とのセックスによってHIVに感染。「知識があるのに何故？」という声に率直にこたえる。

来場者感想：

・HIVやエイズについてある程度の知識はありましたが、まだ自分との距離がつかみきれず、どこか別の世界のように感じていましたが北山さんのお話を聞き、一歩近づけたように思えました。当たり前のような友人や家族など周りの人々の大切さなどがとてもよくわかりよかったです。(10代、学生)

・とても印象に残りました。人生のスパイス。私にも形は違いますがスパイスになっているものがあります。スパイスってすごくいい表現ですね。スパイスはきいてるほうがいいですよ。ありがとうございます。(20代、保健医療関係)

・北山さんのお話を聞いてすごく生きているっていいなと思ったし、長い目で見ると人生の一部の出来事が大きなきっかけだったりするんだなと感じました。HIVに感染して、自分と向き合い、周りに感謝して生きている生き方を尊敬するし見習いたいと思います。(20代、学生)

・等身大で生きている北山さん、こうしてフロントに立たれて伝えたい思いをくみとり、これから伝えていきたいです。(30代、教育関係)

・力強い生き方を聞かせていただきありがとうございます。HIVと上手に付き合っている北山さんを間近で拝見することができて嬉しかったです(30代)

・ご両親とのお話が心に残ります。いくつものターニングポイントも感動的でした。一人の人間を支える周囲の人々と両親の存在が一人一人あるということを感じました。自分の周囲を再度みつめたいし、ご両親のような役割をはたせる親でありたいと思います。(40代、保健医療関係)

連絡先：

北山翔子講演マネージャー：岩室紳也<http://iwamuro.jp> (HPから連絡ください)

神様がくれたHIV

(北山翔子)

満員御礼

※北山翔子さんの講演は、
「神様がくれたHIV」の
内容を基に、
入場料は無料です。

□PWAによる地域密着型自助活動

主催: PHILIP フィリップ; (Project of Health Information & Life Innovation for PLWHA)
HIV陽性者によるHIV陽性者支援の活動・HIV陽性者の発信する予防啓発行動を通じた生活の質的変容を目差すグループです。

内容:

2005年度における活動報告を主に、現在の活動状況を報告し、団体名そのものでもある私たちのミッションとビジョンを明らかにしました。背景や予備概念として必要な国内外のHIV/AIDS問題に話題が及んだことから「少し話が盛りだくさんで焦点がぼやけてしまっているのが残念です」という指摘もありました。今後の反省です。

来場者感想:

・HIVに留まらず、自然科学や文学など、様々な視点からの豊かな知識と経験に基づいたお話、とても楽しくうかがいました。講師の人情味あふれた講座ありがとうございます。・「日本に住んで驚いたのはPWAの声が届かないのにPWA支援を標榜したり、予防活動しかしない人達がほとんどという感じがしている中、PHILIPのような当事者の団体に出会えたのはよかった。PHILIPは大切な存在だ。やや専門用語も出てくるので、活動を知っている人達に向けた内輪話に陥らないようがんばって欲しい。・活動報告だけ聞けるのかと思ったら、沢山のメッセージをいただいて、自分自身を見つめなおすきっかけになりました。・『行動と認識はつながっている』『言葉と発想は二人三脚だ』という指摘が印象的。その通りだと思います。・予防とケアは両立する、という指摘が印象に残りました。団体数も海外に比べてダントツに少ないという実際も驚きました。自分の仕事に生かせるヒントを沢山いただきました。・エイズ対策に関わらず保健予防に関わる保健行政の人には是非聞かせたい話だと思います。・自分から声をあげた感染者の人に初めて出会いました。差別など活動しにくいことはいっぱいあると思います。でもどれだけ悩んでいる人の力になるかは、感染者と接点がなかった私にも解ります。是非がんばってください。

連絡先:

〒102-0074 東京都千代田区九段南4-7-2 2-401 PHILIP (団体住所が変更になりました) info@philip.jp

□長野美根医学博士の「病気と食事と食育」

主催: ぽーとたまがわ

内容:

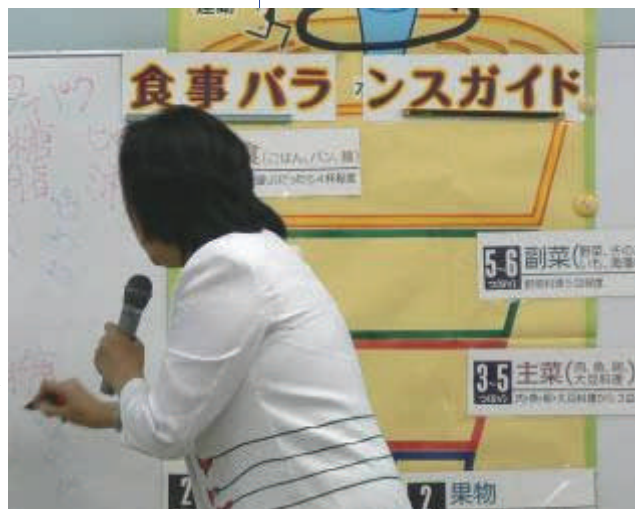
感染者支援の団体として、感染後の生活に向けて「食と料理の勉強会」を10年前から行っています。「食べること」の重要性、難しさ、工夫などをお話しました。

来場者感想:

・食事や食についてきちんと書く機会は今まであまりなかったので勉強になりました。今後の食に生かしていきたいと思いました。
・食事をとることがおろそかになっていたと思うので自分のためになりました。ありがとうございます。
・後半から入ったので最初の導入部分を知らずに入ってしまった。HIV/AIDSとの内容のつながりはわかりませんが、食事と健康管理の視点ではよくわかりました。HIVの治療の副作用で糖尿病になるのか!とびっくりしました。



沢山のメッセージを
いただいて、
自分自身を
見つめなおす
きっかけになりました



□Positive!!!! With HIV パトリック&紳也

主催：パトリック&紳也

内容：

パトリックはHIVに感染したのが1988年。早くから自らがHIVに感染していることをカミングアウトし、HIVと向き合って生きてきた。パトの主治医であり、友人の岩室紳也とフリースタイルのトークでHIV/AIDSと共に生きることを考えた。

来場者感想：

- ・初めて同性愛者の方と接触したけれど、やっぱり、愛っていうか…、愛情を注ぐのは性別関係ねえな…と思いました。HIVに対しての態度も、前向きで自分の生き方を貫く姿勢に共感しました。(神奈川県/10代/学生)
- ・あいかかわらずパトは元気だなあーと思った。アドレナリンがあふれてるってかんじ。こっちも元気になりました。「反省するけど後悔はしない」名言!!(神奈川県/10代/学生)
- ・自分とは違う考えの人の話を聞く事ができて、いろいろ考えさせられました。やっぱり人生は楽しまなきゃ意味ないなあと思いました。(神奈川県/10代/無記入)
- ・若干意味合いが違いますが私も予定外の人生を生きてます。どーしよと思い出して泣きそうになりました。HIVがあるパトリックにとって、ある出来事でしかないと同時に大きな転機となることであったように、私も「よい」望む人生を生きれるようどーにかしたいです。(東京都/10代/学生・NGO)
- ・言葉の力、生きる力、とにかくパワーが伝わりっぱなしの空気に圧倒されました。一瞬を大事にすること、考え直そうと思いました。ありがとうございました。(神奈川県/20代/心理)
- ・ゲイもHIVも「特別な何か」ではないものである→という社会が本当は遠いと改めて感じた。(佐賀県/20代/僧)
- ・カミングアウトされた方のお話を、じっくり聞く事ができてとても新鮮でした。HIVにかかって「生き方を充実させることができた」という一言が心に残っています。(新潟県/30代/無記入)

連絡先：

岩室紳也：〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-1 日本都市センター9階
(社)地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター
TEL： 03-5275-1051 FAX： 03-5275-1052
紳也's HP：(HPからメールや講演の申し込みができます)
パトリック：E-mail：patrick@p.email.ne.jp



とにかくパワーが
伝わりっぱなしの
空気に圧倒されました



◆◆◆◆◆~オープニングについて思うこと~

◆◆◆◆◆今までは、ちょっと毛色の違う企画で、宗教とエイズがどう結びつくのかいぶかしく思っていたが、壇上の4人の個性が溶け合っるとても温かい気持ちになった。

◆◆◆◆◆木陰で守られて「お蔭さま」だと説く若々しい古川師、サーフィンが趣味で自然や人間が好きな宗教家らしからぬ風貌の細井師、HIVは神様がくれたものという言う元気な北山さん、そして3人の間をつなぐ優しい岩室氏。

◆◆◆◆◆みんな気負わず、自然に生きている姿が印象的。(AIDS文化フォーラムin横浜運営委員)

◆◆◆◆◆**宗教も立場も状況もみんな違う「いのち」、でも、一緒に今ここで同じ空気を吸って生きている**

検査・保健所

□青年会議所と保健所のコラボレーション♪

主催：岩手県大船渡(おおふなと)保健所

岩手県沿岸南部に位置する2市1町で構成されている気仙（けせん）地域管轄保健所
内容：

これまで、保健所からのAIDS予防・理解に関する普及啓発活動は一方向的な情報発信のパターンが多く、地域にどれだけ伝わっているのかがわかりにくい状態にあった。そこで、2005年春に地元の(社)陸前高田青年会議所と縁したことを発端に、「2005AIDS文化フォーラムin横浜」に参加、さらに同フォーラム事務局の大江浩氏をイベント企画勉強会に招聘し、実行委員会を立ち上げ、地域に根ざした手作りイベント「南三陸の中心で愛をうたう～あなたとHIV・AIDSのつながりを考えよう～」を開催した。青年会議所、保健所のもっている「強み」を最大限に発揮し、高校生が主役となるミニライブコンサートを開催したことにより、参加者と相互作用のあるイキイキとした内容にすることができた。

来場者感想：

・研修を即、現場に生かすエネルギーはすごい。とにかく、仲間作りに心がけている。(50代/新潟)・企画・実行段階で高校生が関わっていなければ、やはり単なる「お客様」になってしまうかも。(40代/東京)・イベント予算が毎年少なくなっている。ロータリークラブと協働でイベントを実施している。(保健医療関係/40代/和歌山)・すてきな保健所活動だ。学校を巻き込んで、どんどん大きくしてってください。(NGO/20代/東京)・人が代わると継続というのは難しいが、「人が人を呼ぶ」ということを信じ、頑張してほしい。(保健医療関係/30代/福岡)

連絡先：

岩手県大船渡保健所 佐々木亮平 〒022-8502 岩手県大船渡市猪川町字前田6-1
電話：0192-27-9913 FAX：0192-27-4197 E-mail：r-sasaki@pref.iwate.jp
岩手県大船渡保健所HP：http://www.pref.iwate.jp/~hp4502

□HIV検査の最新事情—HIV検査の現状と今後のあり方

主催：神奈川県衛生研究所 今井光信

神奈川県では保健・医療等関係者に、HIVの相談・検査・医療等体制整備のための研修をしています。衛生研究所はそのための専門的な検査技術を提供しています。

内容：

広がるHIV感染・減る受検者という現状から、未検査のHIV感染者が多いと推定されます。そこで、検査希望者に受けやすいHIV検査相談体制が必要です。「受けやすい場所・時間」での実施も有効策ですが、「方法」として、ここ数年保健所等無料検査や民間STDクリニックの有料検査で行うスクリーニング検査に「即日検査」を導入する所が増え、受検者増に貢献しています。即日検査に用いる迅速検査キットは、偽陽性率約1%(本当はHIVに感染していないのに100人に1人程陽性に出してしまうことがある)で、「迅速検査で陽性の場合、追加検査や確認検査で偽陽性を除外することが必要」です。検査を受ける時期は、従来感染機会から3ヶ月経ってからの検査をとっていましたが、最近の検査法の進歩で、3ヶ月以内であっても検査を受けることは、早期発見に繋がる可能性があり、大変有用と考えられます。そして、検査結果が陰性の場合には3ヶ月以降の再検査を勧めます。2006年3月作成の「HIV検査相談の説明相談の事例集」をご活用ください。現在も引き続きより受けやすい検査方法を検討しています。参加者から、具体的でわかりやすく、専門知識がなくても良く理解できたとの感想が寄せられました。

連絡先：

神奈川県衛生研究所 今井光信 (HIV検査機会の拡大と質的充実に関する研究班)
〒253-0087 茅ヶ崎市下町屋1-3-1 TEL：0467(83)4400
e-mail：imaim@d2.dion.ne.jp

人が人を呼ぶ



□保健福祉事務所での即日検査の実際

主催：神奈川県平塚保健福祉事務所他

内容：

HIV抗体検査の受検者数が低迷している中、迅速検査キットが開発され当日に結果を伝えられるようになってきた。それを受けて神奈川県では平成17年8月から即日検査を開始し、平成18年4月から平塚保健福祉事務所で、6月から茅ヶ崎・小田原・厚木保健福祉事務所が即日検査を開始した。会場・場所・職員数・予約の有無・委託の有無・日時と、各所が実施可能な方法で即日検査を開始している。各所での特徴・配慮している点・実績と神奈川県の検査体制を紹介した。また、陽性告知の対応をした3事例についても紹介した。

来場者感想：

即日検査の導入に向けて参考になりました（30代保健医療関係）。川崎でも即日検査実施の動きがあり、その参考になりました。マンパワー・有効な保健指導・プライバシー問題・将来的に浮かび上がってくるであろう問題点がはっきりしたので、そこを考えながら実施に対して必要なことを練り上げていかなければいけないんだなあと思いました（20代保健医療関係）。感染不安の人にとっては検査結果が早くわかることが希望。私の地元でも即日検査が検討されている様子のため関心あり（60代以上NGO/NPO）。陽性者への対応3事例は参考になった（40代保健医療関係）。最新検査事情についての講義だったためか、保健所関係の方の参加が多く、行政でも熱心に取り組んでくれていると感じた。HIVは正しく理解されて、今後さらに検査を受けやすい環境が整ってゆけば感染数の増加をくい止めることにつながってゆくと思った。（保育士）

連絡先：

古塩節子：神奈川県平塚保健福祉事務所 保健予防課
〒254-0051平塚市豊原町6-21
TEL：0463-32-0130 FAX：0463-35-4025 E-mail koshio.p8be@pref.kanagawa.jp

感染不安の人にとって
受けやすい
検査とは・・・？

約1時間後に結果がわかる

HIV(エイズ)即日検査 できます

即日検査とは、迅速検査キットを用いて、検査当日にスクリーニング検査結果をお知らせする検査法です。

- ・無料・匿名・予約制です
- ・毎月第2/4火曜日9時～11時
- ・予約、問い合わせ先

神奈川県茅ヶ崎保健福祉事務所

TEL 0467-85-1171 内線255

当所HP <http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/15/1583/contents4.htm>

エイズ検査・相談マップ

<http://www.hivkensa.com/index.html>

検査は早期発見・早期治療に役立ちます。

HIV検査で陰性ならもう安心???コンドームは嫌いなんだけど・・・

2ヶ月前までの結果です

HIVに感染しても体内でHIVが増え、抗体ができるまでには、通常4～8週間がかかります。HIV検査が陰性であっても、検査前の2ヶ月間にHIV感染の危険性があると、心配が残ります。その場合は念のため、2ヶ月以上経ってから、もう一度検査を受けると安心です。

今後のことはあなた次第・・・

今までにHIVに感染していなかったとしても、「これからも大丈夫」と言えるかどうかは、あなたの行動次第です！今までは運が良かっただけかもしれません。「今後も大丈夫」かどうかは、今後、あなたがコンドームを有効に使えるかどうかにかかっています。

国 際

□子どもとエイズ ～ユニセフの活動と子どもたちの視点から

主催：財団法人日本ユニセフ協会 広報室

ユニセフの活動や子どもたちの様子を伝え、ユニセフ募金活動、子どもの権利に関するアドボカシー活動を行う。

内容：

ユニセフのこれまでのエイズ問題についての取り組みと、日本の子どもたち（ユニセフ子どもネットワークによるHIV/エイズ問題への活動を紹介。また、4月にアフリカ・レソト王国へアグネス大使が視察。およそ4人にひとりがHIVに感染している国の現状を写真とともに報告。世界では、15秒に1人若者がHIVに感染。エイズで親をうしない孤児となった子どもは1,500万人（日本の小・中・高校生を合わせた数を上回る）。おとなの問題と捉えられがちなエイズ問題を、子どもたちの問題として考えることの重要性を訴えた。

来場者の感想：

レソト王国の現状を知り、あらためて自分にできることは何かを考えさせられた（50代）。ユニセフの活動や世界のことを知ることができてよかった。一般の人も参加できる活動も紹介してほしい（20代）。とても参考になりこれからの自分の活動範囲が広くなりそうな気がした（10代）。一生懸命発表する子どもたちの姿がほほえましかった（50代）。

連絡先：

財団法人日本ユニセフ協会 広報室 〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス tel:03-5789-2016 fax:03-5789-2036 E-mail: jcuinfo@unicef.or.jp
URL: www.unicef.or.jp



一生懸命発表する
子どもたちの姿が
ほほえましかった

□在日タイ人AIDS患者の帰国支援 ～治療へのアクセスに向けて～

主催：(特活)シェア＝国際保健協力市民の会

国内・海外にて国際保健協力に取り組むNPO。在日タイ人AIDS患者の支援には、HIV/AIDS在日外国人支援ネットワークと連携して取り組んでいる。

内容：

シェアとHIV/AIDS在日外国人支援ネットワークが合同で発表を行った。①シェア・HIV/AIDS在日外国人支援ネットワークとは②タイのエイズ医療③在日タイ人HIV陽性者の現状・支援活動内容④成果⑤エイズ患者の帰国後の医療へのアクセス状況（調査報告）⑥課題・提言⑦質疑応答

来場者感想：

具体的な取り組みがわかり、良かった。タイでのケア体制について分かり、良かった。予防等、今後の活動の発展を期待します（20代）。調査発表はとても興味深かったです（20代）。エイズ患者さんを取り巻く問題・課題は日本人もタイ人も共通のものがあると感じました（20代）。他の国籍をもつ外国人についても、同様のサポートが可能となる日が来ることを信じてたい（30代）。現在のサポート支援体制が整っている背景にタイでの医療政策の成果があることがわかった（30代）。

連絡先：

(特活) シェア＝国際保健協力市民の会 (SHARE)
〒110-0015東京都台東区東上野1-20-6 丸幸ビル5F
電話：03-5807-7581
FAX：03-3837-2151 Email: info@share.or.jp http://share.or.jp



□「大切なものをまもるために～人身売買問題を考えるワークショップ」

主催:てのひら～人身売買に立ち向かう会

「てのひら」は、日本を中心に人身売買問題を多くの人に知らせ、この問題を考えてもらう「きっかけ」作りを目的にしている。

内容:

ワークショップキャラバン「大切なものを守るために～」の第1回として、第13回横浜AIDS文化フォーラムに参加した。このキャラバンのコンセプトは、人身売買問題を考えると共に、参加者自身の大切なものについて考えるきっかけを提供することである。参加者は8名、てのひらのメンバーも加わり、児童買春の問題を伝えている絵本『プンとミーチャのものがたり』を用いて、このワークショップを実施した。

まず、2つのグループに分かれ、それぞれ円を囲み、絵本を読み回した。参加者から、「みんなで読むことが出来てよかった」、「人身売買は、エイズの危険と隣り合わせなのか？」という感想が出た。

次に登場人物の気持ちになって考えてみた。「貧しさの中でそうなった経緯があるから、ブローカーやプンを売った父親に対して無力感を感じる」「それぞれが皆、必死に生きていて、各々の仕事をしているだけ。どんな問題につながっているかなんて知らないのでは？」という意見があがった。その後、2つのグループで出し合った意見や感想を全体でもシェアした。各グループから、プンはミーチャに出会うことにより、自分を取り戻す。大切にされることを知る。他人から大切にされることで自分の命を大切に思えるようになった。プンはつらい仕事でも、家族を支えているという実感が、自らのアイデンティティを支え満足感を得ていたのでは？という意見が出た。各グループに共通していたのが、「自尊慈愛の芽生え」だったのではなかろうか。今回、物語の朗読を通し登場人物のポジションを考えることによって、「大切なもの」をシェアした。これがきっかけとなり、「自分にとっての大切なものを守るためにはどんな環境が必要か？」ということを参加者の皆さんにも考えてもらえたのではないだろうか。

連絡先:

てのひら～人身売買に立ち向かう会 事務局

〒194-0035 東京都町田市忠生1-28-9 アメニティー91 A - 209

Tel:050 - 1445 - 6947 e-mail:tenohira_ycatip@hotmail.co.jp

Blog:http://blogs.yahoo.co.jp/tenohira_is_for_children

自分にとっての
大切なものを
守るためには
どんな環境が必要か？



コラム

私はアメリカ留学中に、人種差別や偏見によって、たくさんの友達がこの世に生まれてからずっと肩身の狭い生き方を社会から強いられていることに直面しました。エイズとの出会いもその頃。利益追求に走る某薬剤会社によって約百カ国以上の貧しい国に住む人々が十分な治療薬を手にしていない現状を知り、憤りを憶えたのがきっかけです。

私達は、強きと弱き者に分かれる宿命かもしれません。そしてそこに隔たりを作ること好む生物かもしれません。しかし、私は「いのち」への理不尽な蔑みを黙認する社会であってはならないと思います。

フォーラムのテーマは、「つながる」。それは生まれ落ち、この世界に生きる「いのち」と「いのち」が繋がる奇跡。「いのち」、愛していますか？私は、愛したいです。まず自分のいのちから。そして家族。友達。世界中のかけがえのないいのちを、みんなでいつか。このフォーラムは、「エイズ」を通して「いのち」の大切さを心に刻み続ける人間の軌跡となり、その足跡は確実に未来に希望の灯を点すでしょう。

2006年 神奈川県庁 健康増進課インターン生 石原由美子

□「NY→トロント、そして神戸→横浜→東京～HIV/エイズ25周年の新たなエイズNGOの役割」

主催:特定非営利活動法人 AIDS & Society研究会議 宮田一雄

多様な立場の人が参加し、予防と支援の包括的なHIV/エイズ対策の実現を目指すNPO法人

内容:

長谷川博史（日本HIV陽性者ネットワークJaNP+代表）、柏崎正雄（エイズ予防財団国際協力部主任）、池上千寿子（第20回日本エイズ学会学術集会・総会会長）の3人がそれぞれの立場から、国連エイズ対策レビュー総会および同総会で採択された政治宣言が日本のエイズ対策に及ぼす影響、世界のエイズ政策の大きな流れの中でとらえる第20回日本エイズ学会学術集会・総会とコミュニティ・アクション2006の意義などを報告。タイトルのNYは国連総会（2006年5～6月）、トロントは第16回国際エイズ会議（同年8月）、神戸は第7回アジア・太平洋地域エイズ国際会議（2005年7月）、横浜は2006AIDS文化フォーラムin横浜（2006年8月）、東京は第20回日本エイズ学会学術集会・総会の開催都市。日本国内の対策が地球規模のHIV/エイズとの闘いの中で、決して孤立したり切り離されて存在したりするものではないことを具体的に確認する重要な機会になった。

来場者感想:

世界でエイズ対策をしているなんて知らなかった（10代、神奈川県）。なじみのない分野だったので大変、興味深く聞いた（30代、東京）。今年の後半が楽しみ（30代、静岡県）。それぞれの団体の人が連絡を取り合いながら大きな流れを作れることは素晴らしいことだ（40代、兵庫県）。いろいろな会議開催の苦勞を感じた（40代、東京）。

連絡先:

AIDS&Society研究会議 info@asajp.net（宮田）

□ 生きる力を引き出すエイズ対策 ～ウガンダ Reach Out の経験から～

主催:Reach Out

東アフリカ、ウガンダにあるPLWHAのケア組織。PLWHA自身を巻き込み地域に根ざした包括的ケアを実施、成果を挙げている。

内容:

2006年に、エイズ患者の家庭訪問活動から始まったReach Out。ケアを受け、健康状態が回復したPLWHAを次々に活動者として巻き込みながら、少しずつサービスの幅を広げ包括的なケアを展開。医療だけでは前向きに生きていく支えにならないため、2000人弱のPLWHA本人と、その家族に提供している2006年現在のサービス内容は、HIV検査とカウンセリング、抗レトロウイルス薬療法含むエイズ治療、日和見感染症の治療、訪問診療に加えて、職業訓練、マイクロファイナンス、子弟に対する就学資金援助、地域に対する予防啓発活動など。国際的な支援を受け、必要な患者には抗レトロウイルス薬療法も実施、服薬遵守率においても好成績を挙げている。

来場者感想:

集団の力を発揮させるためには1人1人がその集団のためになっていること、それが誰かの役に立っているという存在感につながり生きる力になるのだと思う（30代）。一つの活動も出るという大変参考になった（20代保健医療関係）。本当に「救いたい」という気持ちが感じられた（10代学生）。エイズ支援にはただ薬の処方だけでは役に立たないのだと思った（10代学生）。

連絡先:

外処恵美 〒370-0871群馬県高崎市上豊岡町1081-3

E-mail: todokoroemi@hotmail.com URL: <http://www.reachoutmbuya.org/> (英文)



本当に
「救いたい」という
気持ちが
感じられた

□「声なき叫びを聴く～今、アジアでは～」

共催：ユニセフ神奈川県支部・ふれきしぶる

内容：

講演第一部：大江浩（日本キリスト教会海外医療協力会/JOCS）

貧困、児童労働・搾取、HIV/AIDSなど、今、アジアで様々な危機にさらされ生きる権利を奪われている「子どもたちのSOS」をテーマに、現地支援を続ける大江浩氏（前ユニセフ協会神奈川県支部委員で、前横浜YMCA国際地域本部長）に現地の映像と共に語っていただきました。

講演第二部：佐藤絵里子（前横浜YMCA派遣タイ駐在ボランティア）

北タイのエイズ孤児施設で出会った子どもたちや現地の様子、そして彼らが抱く日本人のイメージなどについてエピソードを交えながら話していただきました。

講演第三部：谷杉佐奈美（日本ユニセフ協会神奈川県支部事務局次長）

ラオスでのHIV感染率と周辺諸国の実態、そして予防対策について話していただきました。会場質問より、現地での保健衛生の対策がきわめて遅れていることも分かりました。

第四部：ワークショップ「人のチェンゲーム」

30人の人が3人のパートナーと付き合ったとして・・・HIV陽性の人がその中に一人ただで全員がHIVに感染する可能性があるというショッキングな結果に一同大いに驚きました。

来場者感想：

茨城、静岡、京都、山梨、東京からも参加して頂きました。

- ・リアルな体験談が良かった。教育がどれほど大切か、知らせる方法がいかに重要か分かった。
- ・人と人のつながりが命を支えるという話が印象に残った。
- ・目が覚める思いでした。私の県ではとても感染率が高く、子どもたちに教育をしてゆかなければなりません。
- ・ピアカウンセリングで今日のことを伝えていけたらと思います。
- ・短時間でものすごい量をわかりやすく伝えて頂きました。見えない（データにない）ところの声なき叫びを聴けた気がしました。

連絡先：

横浜市金沢区釜利谷西3-35-6 TEL：045-785-9510

E-mail: flexible@mail.goo.ne.jp

人と人のつながりが
命を支えるという話が
印象に残った





ネットワーキングパーティー 大盛況!!!



事務局
402





展示出展団体

□エイズと結核と感染症の謎

主催： ATAC in NARA(田村猛夏・畠山雅行)

エイズ・結核・その他感染症の予防と早期発見と治療のためには病気についてみんなで楽しく学習することです。展示とアンケートによる第3者評価。

展示内容:

- 1) ATAC(ANTI TUBERCULOSIS ASSOCIATION CONFERENCE)は、結核やエイズやその他感染者をこれ以上広めないために各分野の専門家が集い教育、研究、研修を行う。
 - 2) 目的に賛同する人は誰でも参加できる。
 - 3) 事例のカンファレンスを行う。
 - 4) 啓発活動を行う
 - 5) アンケートを取り評価を行う。
- フォーラムへのメッセージ: ATACは参加者のアンケートを評価してエイズや性行為感染症・結核などの感染症にも社会の関心を高めるために活動していきます。

連絡先:

代表者氏名 畠山雅行 fax: 0743-78-9841 Email: m-hatake@m4.kcn.ne.jp



□「アフリカ友の会」写真展示とアフリカのエイズ患者による手作り品販売

主催： NGOアフリカ友の会

中央アフリカ共和国で診療所と栄養失調児センターを運営して14年。エイズ感染拡大防止を目指し、保健・医療支援活動を行うNGO。

展示内容:

アフリカ友の会バンギ診療所内での写真を展示したところ、写真を見た来場者の多くの方から「アフリカは大変ですね」という言葉が返ってきました。また、アフリカの現状について、多くの方から質問を受けました。5人にひとりが感染者・患者だということ・現地の患者の現状やエイズ孤児の問題などをお話すると、質問された皆さんは大変に関心を持たれていました。

遠い国アフリカを、身近に感じ、考えてくださる皆さんに会えたことは私たちの活動の大きな励みです。

現地で患者達が縫製したアフリカの生地で作られたエプロンドレスやバンダナ、バッグなどはアフリカプリントが珍しい、という声をいただき好評でした。このフォーラムの展示参加によって、皆さんに中央アフリカ共和国で苦しむ患者達の声を知っていただくことが出来たと思います。

連絡先:

NGOアフリカ友の会事務局 〒115-0045 東京都北区赤羽2-1-12
TEL03-3909-7114 FAX045-585-4627 E-mail:africa9301@ybb.ne.jp
URL:http://www.geocities.jp/africa_tomonokai/

□HIV/AIDS患者のための生活福祉情報

主催： ライフ・エイズ・プロジェクト(LAP)

HIV感染者・エイズ患者への社会的支援活動を行なう非営利団体(NGO/NPO)として1993年設立。

展示内容:

HIV/AIDSに関する最新情報やHIV感染者・患者のための生活福祉情報などを掲載したLAPニュースレターをはじめ、活動内容の展示、『ある日ぼくは「AIDS」と出会った〜シミズくんのサポートグループ設立記』(ポプラ社)等関連書籍の販売、各種資料の配付等を行った。また、セーファーセックスの普及啓発のために性行為の書かれたカードをHIV感染のリスクが高いものから低いものへと順に並べかえる「リスク・スケールづくり」の実習を希望者に実施した。

連絡先:

〒100-8691 東京中央郵便局私書箱490号
電話03-5685-9716 FAX03-5685-9703 ホームページ <http://www.lap.jp/>
※私書箱宛にお送りいただけるのは郵便局(日本郵政公社)が取り扱う郵便や小包郵便(ゆうパック, EXPACK, 冊子小包等)のみとなります。

遠い国アフリカを、
身近に感じ、
考えてくださる皆さんに
出会えたことは
私たちの活動の
大きな励みです



□エイズメッセージカード展示、活動紹介及び書籍等物販

主催： AIDSカスタネット倶楽部

エイズ情報の収集と共有化。その評価と検討。疑問の表出と批判の展開。図書、映画、ビデオの紹介。イベント広報、報告。学園祭等への協力。資料、ビデオ等貸出し業務(会員制/個人2千円・団体1万円/年間)。『AIDS在宅援助基金』創設。チャリティーの企画・開催。バザー。エイズメッセージカードの企画、制作、販売。患者・感染者やその周辺の人たちの思いや声の伝達。

展示内容:

オリジナルエイズメッセージカードの紹介、展示。キースヘリングのポストカード、美術家達によるチャリティー作品の数々の紹介、展示。エイズ関連書籍等の展示即売をしました。また、一昨年紹介したT字体(越中ふんどし)の手作り品も柄を増やし紹介。これらの売り上げの純益は『AIDS在宅援助基金』にプールされ、患者等を直接支援するための在宅介護者派遣の時の交通費として使用する予定。全体的には来場者の数が少なかった事やブース割りの抽選結果に少々不満もあったが、他のグループとの年に一度の交流も兼ねた形のブース出展でもあり有意義な3日間だった。

連絡先:

AIDSカスタネット倶楽部 名古屋市昭和郵便局私書箱94号
電話/ファクシミリ (052)835-6444 安藤鉄雄 URL/http://hataraki-kakeru.main.jp
(ホームページからメールや講演、資料貸出し、会員申し込みができます。)

□タイクラフト販売

主催： チョークデーの会

タイ・パヤオ県のエイズで親を亡くした子どもたちへの教育支援及び、農村、山岳民族女性の伝統的織物、刺繍等の販売。

展示内容:

初めての参加でしたが、タイからのニュースレターを来場者の方々に配布する事が出来て、子どもたちの活動の様子を知っていただけた事はとても幸いでした。活動の一つの刺繍は、とても人気で沢山の方が「わすてき」と求めてくださいました。自分たちが作った物を買ってもらえたという事は、これから先の活動にとっても励みになる事です。北、東北の農村、山岳民族の女性たちの自立支援(出稼ぎに行き体を壊す事のないように、村にある伝統の織物、刺繍の作品を作る事で収入を得る)の作品を素晴らしいと来場者の方が口々に言って求めてくださった事を一生懸命に生きている彼女たちに伝えたいとの思いを強く持ちました。

連絡先:

山田美恵子 鎌倉市手広780-75 TEL:0467-31-0458
Mail: m-m.yamada@s2.dion.ne.jp

□ハッピートラック紹介

主催:CAI (Campus AIDS Interface)

内容:

CAIは活動の柱であるバン・プロジェクト(出張啓発)「ハッピートラック」の活動内容紹介や7th ICAAP時に世界30ヶ国200名以上の方にAIDSに対するメッセージを紙で出来たレッドリボン短冊に書いていただきました。それを額に入れてオブジェを展示しました。また、昨年好評だったレッドリボンキャンディーやレッドリボンピアスの販売も行いました。今回、ブース出展したのが御縁で横浜市青葉区福祉保健センターから大学学園祭の出展のお話も頂き「つながる」を実感した展示になりました。

連絡先:

〒103-8337中央区日本橋室町2-3-16 MBE143 CAI代表 渡部享宏
TEL:090-3962-0221



他のグループとの
年に一度の
交流も兼ねた
ブース出展でもあり
有意義な3日間だった



□マイレッドリボン運動

主催: hippopotamus-fund

内容:

hippopotamus-fundは、東南アジア・アフリカのHIV/AIDSなどの困難な状況にある子ども達を支援するためと、多くの方がレッドリボンを付けることで、差別される人々への理解とHIV/AIDSについての関心の輪を広げたいとの思いから、ひとつひとつ真心込めてレッドリボンを付けたバッチを作り、ひとつ500円の支援協力をお願いした。自分で彩色をして縫い上げるオリジナルバッチの材料も準備。

参加者感想:

手作りだからこそ愛着がわく、だからこそ大切にしようと思うし、大切なものになってゆくんですね。レッドリボンを通してAIDSの理解が広がるといいですね。・一目見ただけでアンディー（ダチョウ）に夢中になってしまいました。一つ一つ心を込めて作ってくれたことを感じました。大切にに使わせていただきます。・レッドリボンが身近に、普段着につけられる！・サム（ゴリラ）をつけてこれからは自分のテーマによりそって、多くの人々とそのテーマを共感してゆきたいです。・小梅（コビトカバ）にホレました☆ ぜひ今後一緒に活動できたらと思います。ありがとうございました。・かわいいアニマルいっぱい友だちにPRしちゃいます。いろんな種類がほしくなっちゃう。

連絡先:

近藤 悦子(hippopotamus-fund) E-mail:fwna5815@mb.infoweb.ne.jp

□HIV/AIDS啓発ポスター展示

主催: かながわレッドリボンプラザ

神奈川県からの委託により横浜YMCA内にかながわレッドリボンプラザを設置し、青少年から一般社会人まで広くを対象にエイズボランティアの為の情報や活動交流の場を提供しています。

他にエイズ予防等を啓発するための、書籍・ビデオも多く取り揃え希望者には貸し出しも行っています。エイズ問題に興味を持ち知識と理解を深めたい方はもちろん、すでにエイズボランティアグループに所属している方など幅広い方にご利用頂けます。

展示内容:

HIV防止啓発活動に使用されているアフリカの啓発ポスターをはじめ、様々なツールを展示し、レッドリボンの活動内容を紹介しました。

連絡先:

かながわレッドリボンプラザ

〒231-8458 横浜市中区常磐町1-7 横浜YMCA内
TEL 045-662-3721 FAX 045-651-0169

□教材・CD-ROM販売

主催: 社団法人日本家族計画協会

厚生労働省認可の公益法人

展示内容:

「全国どこでも、誰もが望めば、リプロダクティブ・ヘルスサービスを受けられる社会の実現」を目標に、教育・広報事業、クリニック・カウンセリング事業、教材・備品の開発頒布事業をすすめています。8/4～6日まで、エイズ・性感染症・思春期の性に関連した本会の教材を展示・販売致しました。参加者の方には特に、思春期の性教育教材として用意したCD-ROMには大変興味を持っていただけ、たくさんの方が本会のブースに来て下さいました。本会の教材が今後も参加者の役に立てるよう、一層の努力をしなければならぬと感じました。来年度も是非、参加できればと思っております。

連絡先:

(社) 日本家族計画協会 リプロ・ヘルス推進事業本部
〒162-0843東京都新宿区市谷田町1-10 TEL 03-3269-4727



レッドリボンを通して
AIDSの理解が
広がるといいですね



□情報提供コーナー

主催：横浜AIDS市民活動センター(YAIC)

エイズに関する情報提供、ボランティア活動をサポートするため平成7年7月に開設しました。

展示内容：

エイズに関心はあるけれど、どこで情報収集してよいかわからないという人、関心を持ち始めた人、訳も分からず入場した人など、ひっくるめて啓発できるのが、YAICがフォーラムへ参加する一番のメリットです。今回の展示では、YAICで作成しているコンドーム用のハードケース「オーケース」や小冊子を配布し、YAICの活動を紹介させていただきました。

今回、ブースで配布した初お目見えの半透明の白い「オーケース」は、大好評でした。無地の「オーケース」に、花や動物などのシールをデコレートしたのですが、なんと、これだけで363個も配布することができました（既存の黒とピンクの「オーケース」を加えると計660個）。この白いオーケースを会場で見ただけから、「ここで販売しないの？売ったらいいのに。」といわれたのは、夜なべしてシールを貼った我々スタッフには大変報われる一言でした。フォーラム以降、今でも、この白い「オーケース」に関するお問い合わせを、市内・市外の複数の自治体やボランティアの方々からいただいています。市内のボランティア団体等には、数に上限を設けて無償配布しています。ご興味のある方は、ぜひYAICへお問い合わせください。

連絡先：

〒231-0015神奈川県横浜市中区尾上町3-39尾上町ビル9階(JR関内駅北口徒歩1分)

TEL: 045-650-5421 FAX: 045-650-5422

URL: <http://www.yaic.gr.jp> E-mail: info@yaic.gr.jp

□HIVに感染した世界のエイズ孤児(写真:日本ユニセフ協会提供)とラオスでのHIV/AIDS予防の取り組み(写真:日本ユニセフ協会神奈川県支部事務局提供)

共催：ユニセフ神奈川県支部・ふれきしぶる**展示内容：**

HIVに感染したエイズ孤児の現状や母子感染を防ぐことのできた親の思いをキャプションや説明をとおして想像していただきました。仏教国ラオスの取り組みとして特徴的なことは、大きな影響力を持っているお坊さんがHIV/AIDSについて人々に教えていること。そして感染率の高い同世代の若者たちが勉強会を開いて予防に努めている風景では未来への希望がかいま見えました。

連絡先：

財団法人日本ユニセフ協会 広報室

〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス URL: www.unicef.or.jp

tel:03-5789-2016 fax:03-5789-2036 E-mail: jcuinfo@unicef.or.jp

□手工芸品販売

主催：アジアの女性と子どもネットワーク

アジアの女性と子どもたちの命と権利を守るため、タイ北部山岳民族を対象にHIV/AIDS感染予防啓発教育・子どもたちへの“商業的性的搾取・虐待”に反対する運動などを展開。

展示内容：

タイ北部山岳民族手工芸品を販売・展示

連絡先：

〒231-0045神奈川県横浜市中区尾上町3-39尾上町ビル9F YAIC内

TEL&FAX 045-650-5430(13:00~17:00)

□予防啓発コンドーム配布

協力：オカモト株式会社

〒113-8710 東京都文京区本郷3丁目27番12号 TEL 03-3817-4111



多くの人が
レッドリボンを付ける
ことで、差別される
人々への理解と
HIV/AIDSについての
関心の輪を広げたい



エイズ考える機会に 若い世代 意見交わす場も

8月4日から横浜でフォーラム

フォーラム関連記事

2006. 7.30 赤旗

り広げられる。同フォーラム組織委員会の主催。入場無料。
エイズについてさまざまな立場から考える機会にしよう。横浜で国際エイズ会議が開かれた一九九四年から毎年開催している。昨年は六十団体、約五千五百人が参加した。

期間中は、「神様がくたしたHIV」の著者でHIV感染者の保健師北山翔子さんが、感染者が置かれている現状などについて話す。若者間で感染が広がっていること、若くして話し合うワークショップも数多く用意。

「十代の中絶」(四日午後四時から)、「高校生とセックス」(五日午後四時から)、「若者を取り巻く性情報」(六日午後一

時から)などのテーマで意見を交わす。

2006. 7.18 神奈川新聞



2006. 8.3 読売新聞

エイズに理解深めよう

あすから3日間 横浜でフォーラム

エイズ予防や感染者への理解を深める「AIDS文化フォーラム in 横浜」(同組織委員会主催、県共催)が4日から、横浜市中区山崎町のかながわ県民センターで開かれる。6日までの3日間、感染者が体験を語り、エイズに関する映画を上映したり、約70の無料講座が行われる。

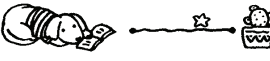
フォーラムは、1994年に横浜でエイズ国際会議が開かれたことをきっかけに、エイズ問題に関心のあるボランティアらが企画し続けているもので、13回目。若年層へのエイズ感染が広まっていることから、今年には若者同士で意見交換をする講座を中心に企画した。女子医大生が性教育について語ったり、大学生時代にエイズ予防を学んだ男性が、南アフリカのエイズ孤児院の現状を紹介した。

県健康増進課によると、県内のエイズ患者・感染者は計8998人(2005年12月31日現在)で、全国2位。このうち20歳未満の患者・感染者は17人だが、同課は「あくまで検査で発覚した人数に過ぎず、本人が感染を知らないケースも相当地数あるはず」と危機感を強めている。

同フォーラムのプログラムは<http://www.yokohamaforum.or.jp/AIDS/>へ。問い合わせは、同フォーラム事務局(045・662・3321)へ。

くらし・家庭

2005年7月30日(土曜日)



運営委員長 泌尿器科医 岩室 紳也

HIV/エイズをテーマにした市民による手作りのつどい「AIDS文化フォーラム in 横浜」(八月五日〜七日)。十二回目を迎えた今年のテーマは「つながる空間」です。運営委員長で泌尿器科医の岩室紳也さんに聞きました。

■多様な性教育を
今、世界でHIV感染者が減っている国はありませ

エイズで死なないで

AIDS文化フォーラムにせひ 自分のこととして感じて

ん。なぜなら、性行動に対する価値観は多岐にわたります。生活そのものに介入するものが難しいからです。感染拡大に歯止めをかけるため、実際に効果を上げたのは、春福でのコンドーム使用の徹底



HIV感染者のパトリックさんと語り合う 岩室さん(昨年のフォーラムから)

や母子感染予防です。若者への教育については多様な意見がぶつかり合っているのが事実です。早く見れば、薬を飲みながら発症を遅くすることは可能です。

■実際の行動で...

そのためには、エイズという病気に対するハードルを下げ、身辺でも「感じて」のつもりでなければなりません。今私たちが「教育で防いで」と願っているのは、知識がいくらあっても、自分の行動でなければ実際の行動は結局つかない、ということです。その「感じて」のつもりが、フォーラムの目的です。

私たちが大切にしたいのは、HIV/エイズにかんする多様な意見を紹介することです。医療、教育、人権、女性、セクシビリティなど、フォーラムも共有しています。全国のNPO、NAC、ボランティアグループ、医療・保健・教

2005AIDS文化フォーラム in 横浜
八月五日(金)〜七日(日)

かながわ県民センター(横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2、横浜駅西口五分)

参加費 無料
連絡先 横浜YMCA
045(662)0001
詳細は <http://www.yokohamaforum.or.jp/AIDS/index.htm>

2006. 7.24 朝日新聞

2006. 8.6 神奈川新聞

エイズに理解深めて

横浜 きょうまでフォーラム

若者らにエイズ予防や感染者への理解を深めてもらうべく、県内外のボランティアや教育・医療関係者が七十もの講座やワークショップを催す「二〇〇六年度AIDS文化フォーラム」が六日まで、横浜駅西口のかながわ県民センターで開かれている。写真、参加無料。

同フォーラムは一九九四年に横浜で「エイズ国際会議」が開催されたことをきっかけに毎年夏に実施。今年で十三回目となる。横浜YMCAや横浜いのちの電話などでつくる「AIDS文化フォーラム」が主催、県の共催。

神奈川県は東京都に次いでエイズ患者やエイズウイルス（HIV）感染者が多く、この数年は若い世代での感染が急速に広がっている。講座では



HIV感染者が自らの経験を率直に伝えようと登壇。参加者との対話の中で、七種類の薬を服用する男性は副作用が精神的にもつらいことなどを明かした。

また、「日本では一日に九十五人もの十代の女性が中絶手術を受けている」とし、た統計や、中高生に広がる性感染症について報告（午前十時）や、エイズを基礎から学ぶDVD上映（午後一時）が行われる。

また、薬物依存症を治療する若者たちのグループホーム「横浜ダルクケアセンター」による琉球太鼓の披露（午後三時十五分）なども催される。

（三木 崇）

て基礎から学ぶプログラムも多く、参加した高校生らは真剣な表情で受講していた。

六日は若者の性や薬物などの現状報告（午前十時から）や、エイズを基礎から学ぶDVD上映（午後一時）が行われる。

また、薬物依存症を治療する若者たちのグループホーム「横浜ダルクケアセンター」による琉球太鼓の披露（午後三時十五分）なども催される。

（三木 崇）

2006. 8.3 毎日新聞

AIDS文化フォーラム

あすからかながわ県民センター

エイズ予防や感染者への理解を深める「AIDS文化フォーラム」が4日、5日の3日間、かながわ県民センター（横浜市神奈川区鶴谷町）で開かれる。13回目の今年もボランティアに支えられて実施される。エイズ患者とHIV感染者が年々増え続ける中、ここ数年特に感染が広がっている若い世代向けに、幅広い視点からエイズについて考えさせる。

現在報告されている国内のHIV感染者は7392人で、エイズ患者は3644人。20代が全体の

の30%を占める。県内には感染者・患者合わせて898人が暮らしており、東京に次いで全国で2番目に多いといつ。今年若者を対象として、エイズと社会、エイズとボランティア、エイズと教育など6分野で、約70の無料講座を毎日3回ずつ開く。

初日の4日午前10時から、感染者の苦しみや困難の中で前向きに生きることを本にした「神様がくれたHIV」（紀伊国屋書店刊）の著者、北山翔子さんと、カトリック教会の司祭や浄土真宗の僧侶が感染者・患者の現状や若者の意識について議論する。

午前10時～午後6時。入場無料。問い合わせは同フォーラム事務局（045・682・3721）。

【福田佳代】

街この人

7月中旬、副校長を務める相模原市の津久井高校での特別講演。視聴覚室の大きな画面上に膨大な若者の顔が並ぶ。カッパルの元彼の元彼女の元彼の……。

「この中の一人でもHIVを持っていけば、感染が広がる。性行為の対象が多いほど危険性は高くなる」

約80人の生徒から声が上がった。「マジ、ヤベーよ」「いかに」

休日を利用して、相模原市内の小中高校を中心に年

感染防ぐ「心の教育」



20～30回、エイズ予防の講演を普及したとして、かながわ演説ボランティアで続けてきた。NPO主催のエイズイベントにも積極的に参加。99年に、エイズの知識、教委の健康指導資料作成

を普及したとして、かながわレッドリボン賞を受賞した。元々は保健体育教師。県教委の健康指導資料作成

エイズ予防の講演を続ける高校教師

安藤 晴敏さん(54)

委員を務めていた93年、「エイズ授業をテレビでやってくれ」と突然依頼された。エイズ教育がほとんど広まっていなかった。安藤さんは「エイズの「エ」の字も知らなかった」という。相模原保健所に通い、必死で勉強。テレビ放映された授業は、その後のエイズ教育の見本となった。

放映から半年後、知人の紹介でHIV感染者の米国人男性と出会った。冗談を言っている病気の不安感を感じさせない男性の明るさを見た。安藤さんは「前向きに生きる感染者がいる。この

人の声を代弁したい」と思った。男性と肩を組んで撮った写真や体験談を授業に取り入れた。

返ってきた生徒の反応は「感染者と普通に接していいんだ」。感染者への偏見をなくす効果を生んだ。独自の授業が評判になった。

「知識の詰め込みだけでエイズは防げない」と心の教育に力を入れる。こう呼びかける。「愛いこールセックスなんかじゃない。自分の心と体を大事にするんだ。それが相手を大切にすることになるんだから」

（千葉卓朗）

フォーラム全体集計表

<1997→1998→2004→2005 →2006フォーラム全体集計の比較>

1. AIDS 文化フォーラムを何で知りましたか?(複数回答もあり)

	1997	1998	2004	2005	2006	合計
新聞等	200(23)	142(17)	10(1)	10(1)	11(1)	373(8)
ホームページ	1(0)	9(1)	153(18)	213(21)	180(21)	556(13)
ポスター		7(1)	21(3)	21(2)	7(1)	56(1)
DM	88(10)	113(14)	71(8)	96(9)	77(9)	445(10)
チラシ	159(19)	208(26)	201(24)	204(20)	140(17)	912(21)
知り合い	229(27)	165(20)	226(27)	301(29)	246(29)	1167(27)
その他	176(21)	172(21)	162(19)	186(18)	187(22)	883(20)
計	853(100)	816(100)	844(100)	1031(100)	848(100)	4392(100)

※97' 98' の新聞等には、情報誌やテレビ・ラジオ、折り込み広告などを含む

※97' 98' のパソコン情報をホームページに、口コミを知り合いと読み替えた。

2.参加者の年齢

	1997	1998	2004	2005	2006	合計
10代	123(16)	103(14)	86(1)	112(12)	112(15)	536(14)
20代	150(19)	174(24)	174(24)	258(28)	162(22)	918(23)
30代	156(20)	164(22)	138(19)	167(18)	140(19)	765(20)
40代	189(25)	176(24)	169(23)	193(21)	199(27)	926(24)
50代	118(15)	85(12)	130(18)	124(14)	82(11)	539(14)
60代以上	39(5)	32(4)	35(5)	60(7)	41(6)	207(5)
計	775(100)	734(100)	732(100)	914(100)	736(100)	3891(100)

3.参加者の職業等(複数回答もあり)

	1997	1998	2004	2005	2006	合計
保健医療関係	79(13)	100(17)	201(30)	203(23)	139(21)	722(21)
教育関係	78(13)	102(17)	156(23)	218(25)	172(26)	726(21)
学生	181(31)	145(25)	149(21)	239(27)	156(24)	870(26)
NGO/NPO	=	=	60(9)	86(10)	71(11)	217(7)
会社員	42(8)	51(9)	=	=	=	93(3)
公務員	58(10)	51(9)	=	=	=	109(3)
主婦	60(10)	36(6)	=	=	=	96(3)
その他	87(15)	101(17)	116(17)	127(15)	114(18)	545(16)
計	585(100)	586(100)	682(100)	873(100)	652(100)	3378(100)

※選択肢で、97' 98' にはNGO/NPOが無く、04' 05' 06' には会社員／公務員／主婦などが無い

フォーラム全体集計表

〈2006フォーラム全体集計表〉

1. AIDS 文化フォーラムを何で知りましたか?(複数回答もあり)

	8/4(金)	8/5(土)	8/6(日)	合計	割合
新聞	4(2)	2(0.5)	5(2)	11	1
ホームページ	46(19)	90(22)	44(19)	180	20
ポスター	4(2)	2(0.5)	1(1)	7	1
DM	25(10)	33(8)	19(8)	77	8
チラシ	37(15)	66(16)	37(16)	140	16
知り合い	68(28)	117(28)	61(27)	246	29
その他	50(21)	86(21)	51(22)	187	21
無記入	7(3)	18(4)	11(5)	36	4
計	241(100)	414(100)	229(100)	884	100

2.参加者の年齢

	8/4(金)	8/5(土)	8/6(日)	合計	割合
10代	28(14)	48(13)	36(18)	112	15
20代	35(17)	91(25)	36(18)	162	21
30代	33(16)	67(19)	40(20)	140	19
40代	64(32)	87(24)	50(25)	199	26
50代	26(13)	36(10)	20(10)	82	11
60代以上	13(7)	17(5)	11(6)	41	5
不明	2(1)	14(4)	5(3)	21	3
計	201(100)	358(100)	198(100)	757	100

3.参加者の職業等(複数回答もあり)

	8/4(金)	8/5(土)	8/6(日)	合計	割合
保健医療関係	42(21)	67(19)	30(15)	139	18
教育関係	61(30)	76(21)	35(18)	172	23
学生	35(17)	71(20)	50(25)	156	20
NGO/NPO	11(5)	34(9)	26(13)	71	9
その他	31(15)	56(15)	27(14)	114	15
不明	24(12)	58(16)	30(15)	112	15
計	204(100)	362(100)	198(100)	764	100
その他内訳(主なもの) 会社員、主婦、公務員、団体職員、保育士、相談員等					

4.参加者の居住地(2006)

北海道 東北	北海道 4日 5日 2 6日 合計 2	青森	秋田	岩手 1 1	宮城 3 5 1	福島 1	山形 3		小計 5 11 2 合計18
24 (1.7)			1 1	2	9	1	3		
関東	神奈川 118 194 112 424	東京 22 39 26 87	千葉 14 11 8 33	埼玉 5 11 5 21	茨城 2 2 4	栃木	群馬		159 257 153 569
752 (71.3)									
中部A	愛知 3 8 3 14	静岡 2 1 3	山梨 2 2	長野 2 1 3	新潟 17 19 10 46				22 32 14 68
9.0 (9.5)									
中部B	三重 1 2 1 4	滋賀	福井	石川	岐阜 1 3 1 5	富山			2 5 2 9
1.2 (1.0)									
関西	大阪 1 1 2	和歌山 3 3	奈良	京都 1 4 1 6	兵庫 3 2 5				1 11 4 16
2.1 (5.4)									
中国	岡山 4 4 8	鳥取	島根	広島 2 1 3	山口				6 5 11
1.4 (1.2)									
四国	香川	徳島	高知	愛媛					
0.0 (0.0)									
九州 沖縄	福岡 1 5 6	大分 2 2 4	宮崎 2 2 2 6	熊本	佐賀 1 1	長崎	鹿児島	沖縄	4 9 4 17
2.2 (2.1)									
海外	米国								
0.0 (0.3)									
無記入	8 27 14 49								合計 201 358 198 757
6.5 (7.5)									

100.0% ()内は2005年の比率

〈AIDS文化フォーラムin横浜の13年の歩み-開催の概要と経緯〉

開催年	1994年	95	96	97	98	99	2000年	01	02	03	04	05	06年
回	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
会場	神奈川県国際交流協会			かながわ県民センター									
開催日数	8日間	3日間											
テーマ	1 市民と海外NGOによるAIDS会議 2 とともに生きる 3 とともに生きるから連帯へ 4 未来へのつどい 5 エンパワーメント～自立と協働に向けて 6 いまを生きる						7 いま一人ひとりができること 8 " " 9 つながるつながる 10 AIDSこれまでの10年、これからの10年 11 いのち～市民が続けるAIDSへの取組み 12 つながる空間 13 つながる空間～Living Together～						
特徴	感染経路を問わず、AIDSとそれを取り巻く状況を、多様に、対等に、文化の視点で考えていく												
プログラム数	58	31	34	72	76	70	64	72	81	74	83	74	72
参加団体数	40	26	28	56	50	47	49	52	56	55	66	60	56
入場者数	4,305	2,200	1,600	4,607	5,694	3,240	3,801	3,946	4,808	4,624	6,031	5,509	3,880
話題/社会	1 市民のエイズ会議/国際AIDS会議開催 2 母親が語る薬害エイズ/薬害報道の増加 3 性風俗とAIDS/薬害/薬害エイズ和解 4 映画・秋桜/カクテル療法 5 TV・神様もう少しだけ/障害者認定 6 複数作家の写真展/ピル解禁・感染症予防法						7 女性プログラム/女性用コンドーム・薬物乱用 8 バリアについて考える/ハンセン病 9 国際NGO・国際神戸会議/SARS 10 10年の振り返り/国際エイズ会議の延期 11 若者の参加/国際エイズ・バンコク会議 12 アジア・太平洋地区エイズ・神戸会議 13 第20回日本エイズ学会(池上千寿子会長)						
来場者傾向	地元の市民が中心			全国から参加			医療・教育の 専門職増加			国際NGO等幅広く拡大			
広報の特徴	ポスター パンフレット			プログラムを全国の教育・医療 関係機関に配付						ホームページによる広報			
マスコミ	取り上げ大から減少傾向			夏の定番記事として取り上げは定着するも社会的感心は薄れる									
組織委員	エイズに取り組む民間団体が構成し、フォーラムの責任を負う												
運営委員	HIV/AIDSに関わる、医療関係者、教育関係者、NPO・NGO、行政の担当者等が個人として参画												
ボランティア	会場運営に市民ボランティアの公募 -小学生から70歳代までの幅広い参加-												
	かながわエイズボランティア育成講座の受講生のフィールドワーク												
							川崎市エイズボランティア講座の受講生のフィールドワーク 夏休み学生ボランティア(中高生)の増加						
事務局	横浜YMCA												

2006AIDS文化フォーラムin横浜を支えた人たち

■組織委員会

神奈川県内でHIV/AIDS問題に取り組む民間団体の代表者で構成されています。

「AIDS文化フォーラムin横浜」を主催し、その社会的責任を負います。

- ◇横浜いのちの電話 榊原高尋 ◇横浜青年会議所 石井直樹
- ◇横浜商工会議所 古田正一 ◇カトリック横浜教区 林健久
- ◇横浜YMCA 山根誠之 ◇横浜YWCA 沖田忠子
- ◇ワイズメンズクラブ国際協会東日本区 林茂博

■運営委員会

フォーラムを実質的に運営するボランティアの集まりです。医師、保健師、教師、共催・後援(行政)の担当者、ボランティアグループからの参加者、フォーラム大好きでずっと関わりを持っている方、そして大学生2名も昨年から加わり、とても活性化しました！

◇運営委員長 岩室紳也

◇副委員長 矢部尚美

伊東和子 猪谷亜子 内田早苗 大江浩 岡島龍彦 金井多恵 郡司すみれ 高村文子
多田由香里 千代木ひかる 中澤まどか 長沢勲 彦根倫子 蒔野絵里子 母袋秀典
八木下しのぶ 吉永陽子 渡曾陸子

■事務局

◇横浜YMCA

組織委員会、運営委員会の円滑な運営を助け、年度を超えての継続的な開催を補佐します。

13年前にフォーラムを立ち上げる際呼びかけ人となった横浜YMCAが継続して事務局を務めています。

◇担当: 渡辺誠二・細川もなみ・柳原さつき・白井美穂

■ボランティア

毎年、小学生から社会人までのボランティアが参加しフォーラムを支えています。

今年は70名ものボランティアが活躍してくれました！心から感謝申し上げます。

青木亮 阿部孝泰 飯野なつみ 井筒幸乃 市川繁 稲毛互 伊原光明 岩本雅子
宇井百合子 上田真希 上野達彦 岡本麻美子 岡村聡子 岡村寛 笠倉彰子
川田栄子 河原貴胤 久保幸子 熊澤祐紀 國分花澄 小林亜希子 小俣妙子
齋藤志津江 斉藤富江 坂田智香 佐藤秀子 城のぞみ 白井美穂 須崎愛海
鈴木有助 田島理沙 角田舞子 長島淑恵 西脇有希 長谷川慧 畠山雅行 林奈緒美
林理子 原英俊 播磨谷菜奈子 彦根紀子 濱村嘉允 端山光 古川英司 堀江真央
洗久夫 本宮理江 細澤慶子 本田泰教 宮りみか 茂木八好代 森住孝明 山田寛子
吉田清子 吉永さやか 吉永千尋 頼田優女 渡辺詢子

川崎市立富士見中学校保健委員の皆さん 藤岡達也 小石愛子 馬目涼介 梶原栄太
秋葉賢太郎 平井彩 矢川武 大森明穂 長濱真郭 下野亮 田村寿理 坂本竜一
渡部瞳 山田拓 熊木英男 市ノ渡麻衣 佐々木りか 服部優実



「2006 AIDS文化フォーラムin横浜 報告書」

発行日： 2006年11月28日
発行： AIDS文化フォーラムin横浜事務局
発行者： 山根誠之
編集： AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会
連絡先： 〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7
横浜YMCA内 AIDS文化フォーラムin横浜事務局
TEL： 045-662-3721
FAX： 045-651-0169
URL： <http://www.yokohamaymca.org/AIDS/>

写真と記事とは関連していません。ご了承ください。

～あなたも参加しませんか？～



2007年予告

「第14回AIDS文化フォーラム in 横浜」

期日：2007年8月3日(金)～8月5日(日)

場所：かながわ県民センター(横浜駅西口徒歩5分)

会場ボランティアとして…

このフォーラムは、市民による、市民のための手作りフォーラムです。毎年、小学生から社会人の方まで、幅広い年齢層の方々がボランティアとして活動し、交流を深めています。第13回のフォーラムでは、70人を超えるボランティアが、会場準備や受付・案内で大活躍してくれました。ボランティアの募集は、毎年5月くらいから、ホームページやチラシ等でご案内しています。あなたも、ボランティアの輪に加わりませんか？

参加団体として…

◇エイズに関する視点をもった内容であれば、どなたでもご参加いただけます。例年、たくさんの団体・個人の方が、医療、保健、教育、差別・人権など、さまざまな切り口でHIV/AIDSに関する発表・展示を行っています。

◇講演、ワークショップ、展示、演劇など、発表の形式は自由です。

◇エントリー費は無料。毎年3月くらいからホームページ、チラシで募集しています。

※フォーラムの趣旨に沿わないと判断した場合は、お断りしています。このフォーラムにおける政治・宗教活動、営利目的、古い因習や差別的考えに基づいた活動はお断りいたします。

※但し、営利企業の商品発表などでも、エイズの情報提供に役立つと判断される場合は参加可能です。また、企業のフィランソピー(社会貢献)活動としての参加は歓迎いたします。

※詳細はホームページでご確認ください。